

沙石集 一・二（天和三年版）

楣山文学園大学デジタルライブラリー

楣山文学園大学図書館



沙石集卷第一

紫薇山房歲

阿波岐曾欣稿書

序

夫鹿言軟語。されば一義より歸り。一派生産業。
ありかへ實相りそむじ。然ハ狂云綺語
れあざなつたり。ことと縁どて佛業れぬ。すう
道より。世間假のや。一実事とたゞ。すう
勝義のゆゑに。と知。ケルと思ふ。ばのべ。老
の翁くつとりまく。づく。たうよども。くふ。く
手。手。す。身ひ出れに。きく。う。難能。ゆく。
何よとぞ。くづべ。り。は。年を。に。ゆ。を。て。く。き。の。ゆ
ゆ。か。お。老。法。師。は。ま。常。れ。今。よ。と。う。れ。ゆ。代



91B1891

さへ。冥途の歩くにあらずとおどろきて。
黄泉の邊（シナカニ）にまづれ糧とつも。苦海（クゼイ）のあづれ
なむと。舟とよづて。うら興言
をああじか。させの事とあつた。時にあ
ては。老病とゆ。論と。後よりあてハ賢哲を
もじと。なれば身にあきた。もうるかば人意
佛法れ大なり。益（ヨリ）とよき。和光のすれ合
をも。賢愚れあれ。となりとよき。こよき
因果のとおりとよき。かと信せぬあり。
あひと經論のあらうなほ文とけり。ひ
先賢の沙汰れ。角（ツバタ）と。夫道は方故

川り向ひ。うりと御く。因縁こよひ。御
其大なれ。と。一き。教義と。あ。い。
假もとば萬行のじ。これ用。こも。をや。
うり。雜談の所そに。教門と。戯論。中
ノ解りと。あり。と。を。からん。人で。こよひ。禮と
あきしだ。法義と。う。と。して。れ事と
な。う。と。て。因果と。わま。生死の御と。う
す。うち。涅槃の都に。ゆ。と。あ。と。せよ
や。是則。愚老。心。の。彼金。と。し。者
の。波と。あ。と。え。と。見。と。う。と。あ。と。ふ。法。剣と
も。う。い。あ。と。み。ぐ。仍。沙石集と。名。卷之半

まう。事ハ百事あぬもアリ。于時弘安二年曆二月
之夏之天集^は、林下貪士血住^は。

和深連珠抄中ニ無住^は、祇原景情力蠶^は、三井寺ノ花若庵
す^は、入室^はノ師ニ馴^はムツレタル兜^はノ墓ナリ成ニカ世シウシト思
ヒヌテ、尾乃切^は、身崎^はト玉竹^は、門を竜^はテ、沙石集^はシ作^はリ^は。

沙石集卷第一 上

目録

古神宮の御事

笠置の解脫房上人太神宮系緒の事

お難と神明^トの事

神明^ト懇と貴様より

神明慈悲智慧ある人と貴様より

和光の利益甚深^ト。

うち事ハ百事あぬも。千時弘安二之曆二月
之夏之天集乞林下貪士血佐

和歌凍珠抄事ニ無住、梶原景情力蜡育ニサキノ花差坊
す入室ノ所ニ馴ムシに名兒ノ墓ナリ成ニカク世シウシト思
ヒヌテ、尾刀加半端ト云竹子門を竜ナ沙石集シ作レリ其ニ
カノ所ニテ滅シトレリトナリ

源氏集卷第一 上

目録

太祚宮の御事

笠置の解脫房上人太祚宮系緒の事

お離と朴明母の事

朴明慈懲と貴清より

神明慈悲智慧ある人と貴清より

和光の利益甚深アリ

沙石集卷第一

上

太神宮の法事

去弘長年中は太神宮へまづて仰りて。或神宮へかうと當社も三寶の法事と忌少殿ちくくハ僧なんどもぬ事ハ。此圓満がうちりうと。大海のまこと。大日如來文をりつめうりて太神宮の鉢とすへてさううめひたれ。其鉢の滿つて蟲れどくなりり。此時。守六天の魔王らうてにあくぼあくぼ。圓とゆて。化法流布。人佛生死と共べき相あつこそ。かづらもせりりりひと。太神宮。魔王。おひわい。

詣ひて。我三寶の名をすう。我身も也。うしくノリより詣ひて。ノリ詣ひりき。博
母なり。其正綱承とたゞ。僧あんと拂殿
ちくあい。社壇もてハ經ととあらじ小
さ。もと。三寶の名をすう。ノリ佛を
立まし。種とハ深紙像とを繫長堂とハうそ。
なんとソヒト。尔が佛法とアラニ事。毋。
内には三寶と。寺りはす。少くもつゝ。故
外。我國の佛法。もと。尔が佛丈の寺守護より
里。當社の本朝の諸神。又母も。かくまほ
素盞鳴尊。天津羅罪と。おも。詣ひりすと。少く油

せゆひて。天の巖戸と。用く。ノリ被ひ。ノリ未下
常闇。承歎に。ノリ。八萬の緒の神達。ノリ
で。ち。神官。も。ノリ。出。ノリ。も。ん。に。座。も。と
た。も。て。神樂。と。も。ゆ。ひ。り。と。じ。御み。れ。神達の御
遊。ノリ。か。げ。ノリ。で。岩戸。と。が。ノリ。も。と
も。も。あ。ノリ。而。白。ノリ。と。つ。よ。事。の。もの。時。ひ。も。ど。り。
も。さ。く。太。力。雄。尊。と。ノリ。神抱。も。ま。の。河。も。岩。戸
も。木。綿。と。り。て。此。中。ハ。入。セ。持。ノリ。ば。う。だ。そ。や。ぐ
抱。ノリ。も。う。あ。う。ノリ。ほ。め。に。日。月。と。か。く。天。下。を
も。う。一。終。日。月。れ。え。に。あ。う。と。當。社。の。東。極。也

とて大海のとて大日のやえりあすむうる。
肉宮外宮があ部の大日とてとなひ候くゆ。
天の岩戸とつゝ都率天也。たぬれ衣すもす。神
代の事。皆トナリテ有リ。真言の意は都率を
内證れ法界宮密嚴圓とて。彼内證の
教と出て日城外とてなき爲の故。肉宮ハ胎藏
の大日。四重曼荼羅とかくどうて玉うさ。水うさ。
らうさ。すんと重うや。うとあしかりある。胎藏の
力もよかく。外宮ハ金剛界の大日。或ハ胎藏地を
あらひゆう。ふとど。金剛界の智界をくづ
し。月輪も入りあり。胎金外部胎湯ト官とく
し。

時法ハ毎陽ハ男なり故。胎より八葉よかくごうと。
八人女とて八人わう。金ハ智れ男につとどく。
大人の神樂人とて此故也。之内殿れやざさだり
まつも。帝佛代只三杵つみて黒もくの。よびひ。圓
のけつゑと恩食のや。うとあとすゞよだつまう。意
ぬぐる。人の心と直かく。うるとおゆく。うと
うと。うと心すよとて。民のよび。人の圓れ費を
思ひん。人神氣よみづべきだり。私モ當社の神官也。
自然よ梵網の十重と擲てばかり。人を殺害一覧也。
なぐく。氏とくれ。波羅夷罪の佛子のねに。うと
ぞ。全形み傷りんと。一ねまく解官也。涙罪小

仰アリ。又當社ノ物ト忌修ニ事。餘社ノトモナガ
ヨリ多アリ。産屋トベニモトア六十日忌。又死セラト
モ死神ト用シキ半日忌修ナリ。其教モ死モ
生モアリ。生ハ死死の始也。死モ生死と。死ニ忌
モトモアリ。佛ノ傳ヘ仰ウト云。故に不生不滅の毘
盧遮耶。法身は肉體と如ク。愚癡顛倒ハ四生ハ
群類とたゞソルントアトミタレハ本意。生死者
流れと在リ。常住の佛道はへらんと也。生滅
生ムリ死ムリ忌ムリ。もろもろトテア流れ
生滅ハ妄業とづくべ。がくくたゞる
佛法と修メ。淨土菩薩と称ジトナリ。ゆくや

く。佛道を信トモトアリナリ。太祚宮代内歎
スアツテキム。只今生れ豪華と尊ヒ。猶德孝余
ヒテ。執心深く。て物と忌ム。さく道心ナリ。ハ
神氣より。アツビ。ちづれ。本地空跡其跡
ちと。ヨモジ。其跡意カツト。漢朝アハ
佛法。トシ。アランタナリ。儒童。迦葉。定光の三人も
菩薩。孔子。老子。顏回。アツ。モ。外典。とり。人の心
やつ。ア。後。佛。法。流。布。アツ。ア。人。皆。こ。よ。と。傳
ト。ア。朝。ア。ハ。和。光。の。朴。明。ア。説。ト。ナ。モ。て。人の。向
う。に。は。と。互。ア。ケ。ア。傳。法。と。信。ト。ア。方。便。と。モ。傳
キ。ア。ギ。地。ア。傳。ア。利。益。と。作。ア。和。光。ア。ラ。ア。方。便

と伝せし。現生より息災安穏のゆゑもと云ひ。當生
ハ無爲常住の悟とひらく。我國は生とうか
人此意とりまくよづこと。

笠置の解脫庵上人太神宮集籍の事

同上之神官記稿一巻。笠置上人菩薩心經傳の
梵也。八幡木を集葬と。示現は我カよハシアヒゴト。

太神宮へ参りぬ。多々と。夢ノ中より告あらむ。
箇の舊くつゝくへ毛髪ひたり。さて至まれ申す
あり。後ひづる程に。亦官れ薦め山と。どぐんと
參りゆふ。山のゆで。山に池あり。大小の山んげ池よ
うりうり。或へひづる。山のうね。づぐり。も色香散に

ゆき。かくろに。人わりてつよ便。此蓮華も。而
社の本宮の。じよ。生。生。大。小。ハ。却。し。も。う。り。生
生。す。ぐ。き。そ。つ。が。う。り。和。老。れ。方。便。よ。く。お。り。く。も。生
生。も。れ。や。わ。の。つ。ひ。う。か。ん。げ。れ。ち。き。か。う。る。え。て。神
基。の。神。宜。と。や。が。往。生。も。と。ご。き。死。や。と。か。う。る。え。て。神
社。ハ。無。氣。法。施。を。う。と。ご。見。詣。り。る。是。マ。さ。う。て。や。そ
貢。キ。う。り。く。只。一。人。ゆ。う。に。ゆ。る。も。と。あ。り。詔。す。う。ゆ
も。う。ら。と。う。ま。す。よ。た。が。う。び。但。か。官。れ。薦。め。山。も
麓。と。め。づ。り。く。大。道。あ。ま。て。山。の。ま。ら。ひ。く。先。の。
ぞ。な。が。ひ。づ。り。り。う。社。壇。の。體。ハ。夏。木。た。が。う。び。そ。て。わ。ま
俗。れ。ま。け。く。と。ま。の。こ。も。か。く。ま。づ。美。み。す。神。宣

のすと同様。是も經基と。御宣やひつじつや
のゆふに。まよへてこそハ居のりと。御宣。御宣
者もつて。當時。御宣にて。御宣。御宣。御宣
三あ。負ひ中よりうりづくをも。金がく彼僧の
家。宿して。社頭の様なんと。ぬる。同様入り。
我今度生れを出難せば。人間は生とへ。當社が
神宮としまれ。和光の方後と。後。ら。ハ活
いきうし。かうり。うき。の經りと。まく。き神官
がかり。う。だ。あ。ま。よ。そ。年久く。あ。と。す
と。う。そ。此事。耳の底。留て。ま。れ。と。仍記之
出離神明。身行う事。

三井寺の長吏。公顯僧正と。し。ハ顯密。明通。道
心。有人。と。安。の。と。ど。る。野。明遍。修。那。彼。行。業。お。が
う。あ。思。れ。り。う。ま。く。に。吾。の。你。地。佛。と。云。道。せ。れ。り。
つ。と。か。う。ひ。そ。彼。人。の。行。旅。を。も。そ。く。れ。吾。阿。僧
正。て。傍。へ。年。も。う。脛。ひ。が。よ。も。が。だ。う。う。う。衣。そ。で。
と。や。う。だ。う。り。も。た。も。く。と。ア。へ。う。り。き。ば。す
野。ひ。う。と。安。く。あ。つ。思。り。う。う。や。ひ。た。い
つ。こ。う。う。り。ぬ。よ。う。び。へ。く。ま。の。野。の。事。後。世。の。み
ぐ。う。う。か。ん。ど。通。來。セ。う。往。り。そ。其。淨。安。三。幣
う。う。く。一。間。ナ。う。う。行。帳。行。う。よ。も。う。く。不。作。せ
き。れ。被。そ。吾。何。思。う。う。の。作。法。う。か。と。ア。ル。リ。三。日。が。れ。

うかまう。また本來の體徳こそ。妙の神事作
てもとをなすにあらず。はるかに行ゆく。アケモハ
すも度ぬ。向後は。もと。が意なれ。我
身より顯密の聖教。とよかひく。出離の要道。とゆ
そくに。自力よりく。智品あり。勝縁の力ともか
きく。出離の。さしき。妙ねの中れ。大小
の神祇。アリ。によび。邊地。圓満。も。やうぶよ
も。日本圓中の大。小の祐林。の名。とくま
てもううて。此一間。なうゆ。悟。ド。益。をりて。心經三十
卷。神咒。アヒンド。誦。アヒ。法樂。よそ。あて。出離。アヒ。
アヒ。アヒ。方俊。と。佐。ぐ。アヒ。別。アヒ。業。ナ。アヒ。

故。大聖。方俊圓。アヒ。機。アヒ。さく。まわ。阿
準。アヒ。聖人。ハ。常。の。心。アヒ。萬人。ハ。心。より。て。心。と。そ
云。アヒ。法身。アヒ。まわ。アヒ。萬物。ハ。身。と。し
て。身。アヒ。聲論。よ。云。く。佛。ハ。非。天。非。人。ト。アヒ。が。ゆ。アヒ
純。天。猿。人。也。アヒ。妄。相。アヒ。法身。所。具。アヒ。十。界。皆。一。智。毗
盧。アヒ。全。體。アヒ。天。台。ハ。心。アヒ。バ。性。具。アヒ。三。千。十。界。アヒ。依。世。皆
法身。所。具。アヒ。萬。德。アヒ。性。德。アヒ。十。界。と。修。德。アヒ
アヒ。普。陀。色。身。の。ち。アヒ。と。り。て。六。界。の。速。情。を。度
も。又。密。教。の。心。アヒ。四。重。曼。荼。羅。ハ。法。身。所。具。アヒ。十。界。
内。證。自。性。會。本。質。アヒ。用。大。悲。利。益。アヒ
れ。顯。密。の。意。アヒ。而。法。身。地。アヒ。十。界。の

えと況へて。死生と利益と。妙體のとれぬ用事。
水とくあきねはのじる。まかとそむれぬ源起
あ。實參禪よりく。湯は半腹と湧毛。半波と
ならぬ湯水ありと。もう波と西天上代れ様子
併善薩れくらとび。是と度ど。我國公
栗敷地也。則強の死生。因果とば。佛法と
俗せぬたゞいゝ。肉體と漏れ慈悲とくもて。等
流りうちんれ應用とすも。恩恩怨怨れくら
とぐん。毒蛇猛獸のうとす。暴惡れくら
を細体へ。佛道よへゆ。さとば他圓有縁思
ケとのもあり。ひ。が網相應れくらとく。もし

尊へ。紙糊ハ林圓とて。大權匪とたと。豫
又紙もみぬ。の。殊裔也。魚と同ドく。まか因縁
さかくび。の外の。下ると。なづく。うして。感無へ
たく。まや。の。然後感相無の。和光の。方便と。後で
お難生起て。要道といづくアミンノ。まや。金
をりて人畜れくらとつて。かくと。かくと。金成
り。もと。で。勝芳ある。金と。まく。うと。つま
れ。財と。て。なつ事。まく。うと。法身。無相。ま
金とりて。四重圓壇十界。隨類れくらと。達。か
かく。と。う。まく。體と信せ。も。う。まく。法身。無相
も。あく。まく。普門の。だ。まく。と。と。れ。う。まく。世間

うごもろをぬけりと。ひまく人のうりとぞ。
ひもとくとくともうぐく。慈悲の利益ハ等流
の界。てくに芳樹よらびきて。路樹の衣生と。行と
恵慈悲とくれくら。まこと和光同塵と。信供の
慈悲のきらめきと徳と。かくへの御儀
と。身うかと。年々あうひゆると。かく
善阿彌といたまきに意樂あうと。隨喜
くらゆの修教よ。りきども智者なき。ばくらみ
御業あじと。因ひあくわやく。つゝ思
ひもくつと。うきと。通あれ歎と。うきと。う
きと。ゆきと。道せよと。うきと。うきと。
者大師。摩訶止觀と。止觀と。止觀と。者高尚
より高尚と。早劣の者ハひきりせんとのゆす
ぐぐく。和光の垂跡と。高尚の者ハ高尚と。と
いふと。高尚と。高尚の身と。毗盧の身と。寶光
不現と。と。矣魔の身と。毗盧の身と。寶光
四種法身と。と。べ智無際智と。具せん。其肉身
ひと不變魔鬼。書は身と。身と。あらと。て。自性法
身の心地と。色と。さねと。と。古德の云。阿鼻
の依正も全處極聖。自心毗盧の身土。不踰凡下の
一念と。又三種は即身成仏と。者。程具の成仏と。者。人
人。形色りりや。戒執によるものとあらつまど。能弘

之顯得の勝佛をさげて。自在によつて。とひどく
持ふ。加持の財徳と者。已成の佛の三業のめぐらと
ぬなびく。増上縁とて。我心よぐまく。とくに。善盡の
莊嚴。檀沙の德用。とあらへん。信ゆて。かう
て。我三業。佛の三業。相應する時も。わくまぢ
佛とゆかり。村とゆき。事。や。肉裏。くふ
壇の法と修せ。れり。慈慧僧は。中壇の阿
閻梨。そがつり。門ひそひ。ゆく。んどうぐ
み。め法の中。不動。ゆふく。が。そよ。とくした
ぐ。お。寛。朝。僧。は。降。三世。の。阿。閻。梨。不。
たり。り。が。あ。つ。内。ひ。が。く。と。が。何。る。財。の。僧。は。と。ゆ
り。と。山。門。光。と。り。く。と。い。と。不。役。れ。事。一。と。邪。寛
朝。妄。会。れ。と。こ。も。う。よ。と。い。と。修。と。行。く。金。の
傍。は。ゆ。り。と。う。と。一。宿。よ。云。切。底。生。皆。如。來。益。あ。り。
菩。賢。菩。薩。自。體。遍。故。と。說。と。て。ど。き。と。う。全。體
法。身。ち。う。と。つ。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。
の。ア。リ。と。と。ハ。不。增。不。減。淨。小。即。此。法。身。流。轉。又
道。說。と。名。死。生。と。即。此。法。身。假。行。六。度。名。而。爲
菩。薩。と。即。此。法。身。反。流。盡。滅。と。說。て。名。付。く
仮。と。と。や。つ。今。と。と。や。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
法。身。和。充。同。塵。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。

機^ミのをし利益^ヤ。志^{アリ}勝劣^{アリ}べ。我國^ハ利
益^ハもいへやれか。ぞれとぞてなりましと
や。其^シへび。役^ノ役^ノ行^{ハシ}者^者。其^シ山^上より。あそ
きけ^ハに。秋^ハの像^{ハシ}。終^{ハシ}と此^シ事^ハり。よ
て。此^シ圓^{ハシ}の末^ハ生^{ハシ}。化^{ハシ}。かく。うべ。これも也。造
と。うそ^{ハシ}。け被^{ハシ}。嘗^{ハシ}。彌勒^{ハシ}。は。うそん^ト
活^{ハシ}。れ。是^{ハシ}も。うそ^ト。と。ヤ。うそ^ト。時^{ハシ}。當時^{ハシ}。茲^{ハシ}
王^{ハシ}。權^{ハシ}。そ。と。そ^ト。うげ。うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。
ひ^ト。時^{ハシ}。是^{ハシ}。そ。秋^{ハシ}。圓^{ハシ}。結^{ハシ}。化^{ハシ}。と。うそ^ト。今
かわく。と。そ。活^{ハシ}。す。秋^{ハシ}。劫^{ハシ}。盡^{ハシ}。時^{ハシ}。復^{ハシ}。と。か
無^{ハシ}。道^{ハシ}。心^{ハシ}。者^者。と。うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。
うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。此^シ心^{ハシ}。うそ^ト。行^{ハシ}。人^{ハシ}。信^{ハシ}。うそ^ト。
うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。事^{ハシ}。うそ^ト。うそ^ト。
うそ^ト。うそ^ト。うそ^ト。我^{ハシ}。圓^{ハシ}。風^{ハシ}。俗^{ハシ}。神^{ハシ}。明^{ハシ}。あ^{ハシ}た^ト
素^{ハシ}。罪^{ハシ}。あ^{ハシ}ゆ^ト。信^{ハシ}。教^{ハシ}。と。う^ト。佛^{ハシ}。菩^{ハシ}。薩^{ハシ}。
相^{ハシ}。そ。そ。徳^{ハシ}。益^{ハシ}。向^{ハシ}。と。う^ト。も。和^{ハシ}。光^{ハシ}。方^{ハシ}
う^ト。も。ど。や。う^ト。な^ト。ま^ト。に。と。う^ト。な^ト。人^{ハシ}。往^{ハシ}。
た^ト。つ^ト。事^{ハシ}。と。う^ト。往^{ハシ}。思^{ハシ}。癡^{ハシ}。往^{ハシ}。と。う^ト。や^ト。
も。か。方^{ハシ}。ア。實^{ハシ}。よ。無^{ハシ}。悲^{ハシ}。り。る。と。身^{ハシ}。や。う^ト
教^{ハシ}。苦^{ハシ}。巧^{ハシ}。も。う^ト。な^ト。と。ハ。藍^{ハシ}。う^ト。出^{ハシ}。藍^{ハシ}
う^ト。と。身^{ハシ}。が。う^ト。だ。う^ト。事^{ハシ}。佛^{ハシ}。う^ト。も。う^ト。

佛より色からみて。キリ和光神明の慈悲利益
色なりと。古徳の寺と建立。爲ひ。乞
乞求と勸説。あじよ。和光の方便と云ふ
もて。佛法をかくこと。彼修むれ。意樂がれ
わしよ。心をほん人のものとまわび渡
り。天竺の寂迦淨名居士。漢土の孔老。和圓の上宮
聖靈。是れ。和光の慈悲。甚深の化儀也。不神
明と同一の也。

神明慈悲と貴福之事

和光は。病の上人。常觀房と。しは慈悲の人
も。病室と。して。諸縁めらに。あましく
真言と。よしごあらき。わう時只一人。わう
あつて。つむ行ふ。路のわきよ。ゆきなくさりのあ三人
を。びゆて。ざめく。ときさき。ともあすと。ちくわ
も。もよおきて。わゆよたく。ざや。同ト。十二三日
うち。なう。みやり。はゆ。と。作者。じう。の病を
て死して。ゆう。文ひ。ゆく。あつまつ。よ。わば。人
の事。まつり。やう。も。ひよ。ひく。と。たぐひ。只か
かく。このわまう。よ。がく。と。まか。れ事。ゆう。びと
て。源もよき。あへど。歎よ心の中。こころ。わづき
え。け。今度の抱角で。と。あめり。と。まく

たまひて。少しここまづうりと四ひて、便宣ち
うこ證をへりて、とて御。陀羅尼^{タラニ}と云ふ
て、そつひく。さて、三拂れ^{ミツブツル}と云ふ。身
もくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
跡れ^{シテ}木へまじ^{ミツル}。事一とありか。がくま事とそ
はう時よ。神罰^{カミヲシキ}よーと。あまにかくもくもく思ひをす。
えうふ。苦證^{クシヨウ}の方へじくひて、あゆく。がくもくりづひ
かくりづひ。其時アソギて、ハヌモ^{ハヌモ}とおがーり
くうよ。ふうりのびて、年詔^{ノハラシ}とかか。別れづひ
く。そちもととわまく。内通^{ノハラシ}—法施^{ハサヤ}—えもくよ。行け
東^{トウ}—

くんなまき。作つまそ。衆たゞりり。がくもくりおでわ
ノハラシ。ひくにさく。あくたうわく。諦^{ナガシ}き^{ナガシ}と云ふ
も。系^トぬ^トう。うくふく。小内^{シナカ}とすため^トや。じ称^{シテ}す。もと
て。がくもく。思ひうる。詔^{ノハラシ}よらう。ほきうりて。がくふく傍
は詔^{ノハラシ}まちへられだ。をくもくもくもくもくもくもくもく
まぬ。無燃^{ムシヤム}と貴りきと。神詔^{ノハラシ}と^{ハラシ}難
い^ト。て。あく^トく^トく^ト。とくあく^トく^トく^ト。とく^トく^ト。
片^{カタ}くまくまく。りもく。まく深^{シカ}の神^{カミ}あやううり。あり
相^{シカ}問^ス。よく。アホ^{アホ}く。かくく下向^{シカ}て。うう。その
慧心^{カクシ}の僧^{ゾウ}が。多^シ詔^{ハラシ}せられりうる。が^ハ詔^{ハラシ}宣
りうて。ば門^{アゲ}。と。修^シ。まく。れ。が。とくまく

くそつて。天台の法門不審アリモケリト。わくア
ヒトシノ人修ム。アソテ次第ヨリ入テ。家ハ大主事。と向
マリヨリ。アソテ。此ノんカミ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。

トツヒタリ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。
アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。アソテ。

一 尾張の圓熱田の神官のかろいーハ。性蓮房

ヒツメ上人。母の骨とおもての野へ歸り。社頭。富せんそん人皆ありて。富人。と者有る
り。と。大官。と。あらの門のつまみ。あれ。と。神官
と。れ。と。大官。と。夢。と。的。神。と。つ。い。と。神官
一人まで。今夜。ちあす。客。人。と。や。う。く。く。り。そ
そ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

者と社壇へまわる事く。通夜一月の日や宵もと
ちうわうよ。此性蓮房のかよひ。住者くらえ。ば
うと。さてはとく此僧と結びれ。母の實と
うくとハ。多まつて。と。りと。大明神の下よ
て。あす。神氣と修まつて。まう事。とて。侍り。
今來。れ示院と。うすりの上。は。と。よ。居
まつ。もかよ。む。く。街。て。ま。く
そ。う。て。馬。く。用。達。なん。ど。沙汰。て。ま。聖
へ。道。う。り。う。事。下。よ。因。ま。す。う。ん。え。ま。ん。わ。う。承。久
の。教。の。時。當。圓。代。俗。人。も。う。生。て。社。ひ。よ。あ。ま。う。復
が。き。れ。う。り。も。世。間。の。資。財。難。具。ま。で。用。意。ー。く。
事。と。か。く。あ。う。ま。り。の。う。中。よ。或。ハ。狀。小。ち。く。行
も。あ。り。あ。う。ひ。ハ。う。や。う。者。と。な。う。神。官。を。制。
か。ひ。て。た。の。神。と。が。う。一。年。を。て。マ。く。せ。ん。を
あ。と。ぐ。る。う。そ。の。神。樂。も。い。せ。く。諸。人。同。心。リ
射。達。ー。り。う。よ。一。れ。殊。宣。よ。祀。ー。て。報。道。天。も。此
國。ト。能。う。ハ。萬。人。と。と。ぐ。く。ニ。三。に。ル。ん。と。あ。が。り。
う。う。よ。ト。う。き。と。じ。よ。ド。う。き。と。修。し。せ。れ。を。
諸。人。一。同。よ。聲。と。あ。り。て。隨。喜。渴。仰。仰。れ。な。ま。と。あ。
ー。う。う。其。時。の。人。今。よ。う。う。て。う。う。り。仰。う。う。う。と
仰。め。れ。思。ひ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
身。と。り。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

養アシテやうてありと林人制アマタケけきハ西アシテ

せんきて。山の下アシテ有りとつゝと

神シムの慈シメ智チ惠エ有人ヒトと貴クニ珍シ事ス

春日カスガ大オ神ジンの御ミ紀キ宣スル。明慧房ミツイフウ解脫房ケツラフウとし。わが

太節次郎タツヅチロウと四ヨリ人ヒトと。修ムめりと。わは時。

此シテ人ヒト春日カスガの御ミ御ミ。春日野カスガノの鹿カスガノシカの中ナカ。ひざヒザとねて、うて、やま、いそまろを

タリ。明慧房ミツイフウ上人ジョジン渡天ワタヘンの事ス。山ヤマハラ。思シムハラ。

まひづく。湯深カタマリ。春日カスガの太節タツヅチ御ミ紀キ宣スル。わが

三サンあ修ムり。波ハたく。せんの日紀ヒツキ。もうちゆ。わがえ

れ。かくとく。かくとく。事ス。となり。さる。アシテ

トの後アフタ。もくめをひう。そ。わり。ア

まや。アリ。思シム。アリ。天アメ。安穩エンシン。ゆゆう。

座シテ。アリ。ひり。そ。祇アマ。アマトアマト。アマトアマト。

そ。信者シンザイ。其時上人エビス。手ハと神シム。也。修ムひう。が

一ヒコ朝アサヒ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。解脫房ケツラフウ上人ジョジン

置シテ。般若臺ボンダクテイと名メイす。雨居ウジ。地ジ。アリ。そ。明神ミツノと

織アマ。そ。もう。う。織アマ。う。童チド。子コノ。わから。う。そ。

上人エビス。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。

沛アマタケ有アリ。

我アタマのん。紹アシテ。守シテ。般若臺ボンダクテイ。御ミ。御ミ。限シテ。

或時般若臺ボンダクテイ。道場ドウジョウ。御ミ。御ミ。限シテ。

新正年厄のせん先をやめと月の夜と照
常。法門寺と往くとア修ひなまつて。山と
在せぬ事。とまく心地。てさうりの山と。山
とゆうとゆうと。もううわう御ひえあつ御はまよ
とゆう。作明ひうらよひ多きがくかに。外よき意
悲く。人なり。多きむき悲もあらば。がく。ビ神明
の伴とねり。うらづきしも。書にゆく。やハ乾り
ゆふ。水へうそとゆかよなう。ゆくとくとくとく
なうと。心くらじ。智慧の火をつまう。くま
けのうりかひわうひ。慈悲の水を流り下

和泉乃利益喜深の文章

あれよ。小浦の僧都。障圓。え解脫。上人の事。小
て。頑。字のす。ま。一。が。磨。通。。そ。う。て。あ。う。女。今
自。く。情。く。れ。事。を。や。う。中。年。我。ち。の。朴。乃。佛
方。後。の。つ。ま。事。つ。ま。も。值。遇。一。ま。う
人。と。ハ。う。う。雇。人。を。う。と。う。化。方。の。地。獄。へ。行。
き。び。一。春。日。聖。の。ち。て。地。獄。と。ま。て。う。入
フ。毎。晨。朝。よ。第。三。河。津。厥。も。地。玄。菩。薩。を
灑。冰。添。水。と。入。く。錫。杖。と。ま。て。水。と。ま。ま。落。下。
あ。い。会。よ。經。と。ひ。時。大。乘。經。の。要。文。曉。羅。尼。を。と
こ。か。て。や。也。落。す。事。と。日。に。と。ま。ま。う。か。く。こ。の。音。寂。

よ。もて。あくやうひあくゆく。家生とも多。
春日山は東よ。香山との所多く。大の林般若とと
きゆまと聽かて。徳義りんばくと。人間よたが
く。じく。る生なり。され学生なり。まの向
里ため神は。說法聽因もうす。がくのを
ゆきと繕りりれ。地益ハ社。鹿鳴て三木の中志
一也。故に利益ウそくもハモリトボアヒ約。故
無佛世界の導師。が師付属ハ薩埵也。地垂迹い
づきもたのり。そと。まもと。和光の利益。う
くと。日吉の大宮。うとう。山僧が
月く天狗と。和光の方後。うとう。出離と。
トモトはく。さわを總社の中よ。平福。一師。靈。驗
あくらよ。がり。よ。本。地。ハ。地。藏。薩。埵。かく。
そく。とかく。そく。身。と。う。あく。思。つ。そ。佛。法。う。わ
あく。と。あく。よ。門。の。方。後。よ。う。つ。と。出。離。を。ふ
ごく。心。地。觀。經。よ。一。佛。一。善。薩。と。の。じ。よ。教
法。と。と。や。說。法。と。と。肉。よ。ハ。佛。性。高。位。程
と。眞。セ。う。あ。と。信。ト。お。よ。ハ。中。地。垂。迹。ハ。意。悲。方。後
仰。て。出。離。生。免。れ。道。と。心。中。よ。づ。い。き。じ。だ。き
と。や。三。恩。ハ。火。坑。足。の。下。よ。あ。と。六。道。ハ。長。夜。の。夢。よ
い。ま。う。じ。化。上。ひ。人。身。と。う。も。優。曇。の。佛。法。ト。病。ハ
か。う。が。と。と。あ。く。は。し。う。う。か。く。で。三。塵。志

ゆううやくゆうなば。千度悔。百度かかじよ。
何の益うあうづき。多生に罪ようけひ出く億
劫よ一びあつて。心とのくへじのくへを法
とまう事。なほ時人ともびだらうえを
ゆびゆめくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

波石集卷第一 上終

波石集卷第一 下

目録

- 補明道心貴珍事
生教と補明は供ともれ不審の事
和光の方俊才とくく妄念とやじれ事
淨土門の人補明とうるや罰と盡事

沙石集卷第一 下

神的道心と實踐の事

あわてに浮遊をくり、學究よひびとく。一
事れ功。年少りうそ。頑学れゆきありり。もう附
春是不社。一氣參ど。爰々ため林内獨縁り。是
論伽唯識の法門かんと。不審中古連答ありり。
但中面とハ殊せば。是れ中よりり。ハ後學も
道よりさうりて。舊古年ひうくやう。唯識の
法燈とくり。即林れ威光とまく。あり。されど
かくあれあくろも體と云ふ。無訓ともうけら
う。毛一せれ事よりゆじと。宿習までもも

とびぬひ仰う。向くの拂うらとあへそま
つたくばづるをうき歡喜の心もゆくゆくゆく
りきど。歎よもぐれの功のも難く多すを
こそかく向うりとまき便へ道心ひがみご。うそく
うそく面へじく下さうとすれあうと。信あうとやくく
羨まうと。慚愧の心肝よろゆう。ぐんまの波えどよ
わまうと。差くらむ歎よ佛法へむきに家す。もや
うと解脫せんたり。名利とくべくべ。繆け
小。而都北嶺てぐくつよれ風儀ひそよ。名利とそ
途よ出よて善徳とらそと。じめりて。或い麿道
爲。うりへ西慈へ。づじて。口にへる心ゆく
て。なも適世の門よへく。一筋よ出離の道とゆく
めり。 **圓**三井寺。山門のまへ焼拂つきて。堂
塔傍傍佛像經卷拂ふあく。寺傍す山野よぎ
ちよ。人となき寺へなりよろよ。寺傍の中央
人新羅明祚へありて。通取をうちりつ事す。而
神濟戸とうりて。而に内山地よりよかくもあ
りき。嘗て中よ思ひよ是くし。報喜の仏法
やくとくらうひまがくをもてゆる事す。以
ちうむひうげきを。ぬうかうんと思ひ落す。も
而リ。或むたす。いだく。一けきど。ゆくとす。
いぐでうかげきをかう。あそくうん。まくまくほ

あるまく。眞實の菩提心とあこやう。寺僧一人有
事ひ。どうこぢり。さかり。堂塔佛經の財寶あらば
はうりて。菩提心とあこやう人。千萬人の中
かくも那くこと。ゆききりとみて。彼僧も
發心してゆりとどき。一僧へたま。林明は師公
菩提心とあこじ。海とれ道よへとあらうひあす
中。づきに祐よううり活りて。今生の事を
行りやさん。祐えめあらうとこそ是れ也。せん
せの果報。そ。貪富をすりも。あふげりよ堅苦の
事。祐の佛地す。一さんばかり。ゆ
りくに向く。ゆききりまく。道心とむけり
ゆきや。東塔の北若よ。貧しき僧をうり。日立百
日立祐。ゆきりく。ゆきりく。ゆきりく。
ゆきりく。示はとくひうて。もううび思ひとく。ゆき
く。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。
出立きて。ゆきく。ゆきく。ゆきく。西塔の前
も若がる房の内窓にて。示はよしよて。後
あと侍ひて。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。
ど。房主あよも。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。
ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。
ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。ゆきく。

北若ひよし。此房すと。西塔ノ南若れ。あくまう
なう房へ倒りたる。また少弔一の事とあり
も。いふ。此外の御分。伏らしの御事。おを
あくどく。あく。おひり。上。思ひふうての
事。おび。業の決定。の。まとかと。ハ。佛
作の。むち。おねり。まきハ。神力。業力。ア
ハ。佛の在世より百の。種。吹。漏。僧。太
も。う。と。教。あたとの。活。目。連。神。通
と。う。と。う。と。う。と。う。と。佛。種。ア
ハ。教。も。は。觀。教。も。は。う。神。通。を。
其。も。審。と。ひ。ん。あ。ア。ア。教。經。と。開。鑄。の。中
に入。天。上。來。か。と。モ。教。經。ひ。う
き。り。日。自。然。ア。て。内。鉢。中。ア。モ。死。せ。ア。彼
因。縛。と。後。修。ア。ハ。更。教。修。じ。し。百。人。の。綱。ア。と
一。ツ。大。な。う。奥。と。海。中。ア。金。ア。モ。害。志
た。う。ア。今。日。頭。つ。て。こ。な。う。と。修。ア。モ。と
教。す。も。其。日。浦。下。や。と。有。ク。り。そ。ん。や。ん。ま。れ。佐。に
り。う。羅。漢。ハ。聖。者。ア。ト。モ。り。を。あ。ま。う。ア。ま。だ

一
もて乞食とぞを食とぞ。佛とぞへく。塔
の塵とぞを乞食とぞ。其日ハ甚め分りて
乞食とぞ。時あまむとぞ。とぞくとぞ
うと。餘れ比立乞とぞそりよ。其後乞食とぞ
よれとぞ。七日間食せびとぞ。汝と食
えて餓死矣。佛因縁と說ゆり。汝云は母れ
あふ不孝ふで。母がえて食物と乞ひれど哉。
汝とぞ乞水とぞりせりとぞ。七日食とぞ
へどぞ。母と同居とぞ。業也。聖者とぞ
共れじよがわとぞ。說多ひりよ。佛因縁
なきとぞ。あづ
ば。只我心とぞらむ。後どうか
罪なき身とぞ。淨土菩薩とぞひ称す。下
二條院の瀆岐。此心とぞあつるや
うとぞ。首ゆとぞ。思ひて。み此せとぞ。とぞ
とぞ。佛神の感應とぞ。とぞ。これ因縁とぞ。と
ぞ加とぞ。事とぞ。今生善えのせ。事とぞ。善
いとぞ。有りん。後世菩提の事とぞ。ありぬまくよ
引うとぞ。所。神龜ゆうとぞひゆ。祖師傳教
とりゆ。山傳。わたり。貪くて。日吉よ。系。教
て。行持。一り。起。示現。よ。し。ど。山王太師と

と極^きまでまうて。離^{はな}山^{さん}にて。稽^{けい}荷^{がい}よまうて。
アリテよづく祖^そをかくて。千石^{せんごく}とおれと。おとひ
おもを経^{たど}てよて。どうこひよかどよ。又^{また}は。稽^{けい}荷^{がい}
の作^さとけりハ。自吉^{じきち}の太明^{だみや}神^{じん}御^ご制^{せい}止^しわき^ひ
きれ^ひる。アリテ。御^ご修^{しゆ}め事^{こと}れ中^{なか}。ヤ^を
れ。我^わアソム^{アソム}ひあく^{ひあく}。アシテ。御^ご止^し
事^{こと}。我^わハ小神^{こじん}とて法^ほ味^みと^トろ^びて。其^{その}外^{ほか}
思^{おも}ひアリ^{アリ}。彼^{かれ}ハ神^{じん}と^トま^ま。桓^{かん}象^{ぞう}。
今度^{こんど}生^う氣^きをあが^{あが}き者^{ひと}。今生^{いのち}の苦^{くる}れわ^わ
ざを安^{やす}むへぬに拘^こる。出難^{でな}ひ^ひう^うく^く。身^み悲^ひ
き^きと^とて。憂^うれ中^{なか}をかく^{かく}りあく^{あく}して。可^か
うきて。否^{うそ}そ本山^{ほんざん}へうりて。一翁^{いっおう}。後世^{こうせい}善^{ぜん}捲^{まき}の^の
めの^のと^とた^たと^と。往^く生^うき^きと^とん^ん事^{こと}ハ示現^{しげん}かく^{かく}すも^も
も^も神^{じん}を佛^{ぶつ}め^め。アシ^{アシ}事^{こと}ハ示現^{しげん}かく^{かく}すも^も
かく^{かく}。かく^{かく}。かく^{かく}功^{こう}と^とへ^へ。冥^{めい}れ益^{えき}と^たのじ^じと^と也[。]
行^お基^が菩^ぼ薩^{さつ}の御^ご遺^い誠^{じゆ}よ云^いく。一世^{いっせい}業^{ぎょう}花^{はな}利^り養^う。
多^た生^う輪^{りん}迴^{はい}基^が。寔^{じつ}地^じ房^{ぼう}れ。證^{しのぶ}貞^{じん}法^{ほう}や。善^よ西^に坂^{さか}
やうと。千^{せん}禪^{ぜん}師^しの。よ^よセ^せ経^きよ^よあ^あう。わ^わい^いね。半^{はん}輿^い

よりて。佛眷属濟^{スミヤク}てからまし。何事と
アハシムと思ひて。老母貪^{マハ}き事。と思ひます。
彼老母養^{カハヤク}の事。佛心もひそむ。アリモト。而
色^{アラカニ}ゆくにぎて。心もげよみとす。身筋
いろが。此事と云ふ也。既^{アリ}と。身筋と
うて。猶^{アリ}とも。身筋と。身筋と。身筋と
トドカルも。而心よ^クからぬ。モアセと思ひて
一^ヒ老母の事。アリヤド。アリセ^ト。而
ハ。モアセ。後世。菩提^{ボダヒ}は事。いとほ^シまろ
里^{アリ}。而たまうとアリセ。五^{ハナ}一^ヒ
アリ^ハ。かづを経^{アハシム}と。道心丸をもぬく
と。う目出^{アハシム}。世間の事。と。のせたりて。神
佛よ^クアリヤ。モハセ^ト。アリ^ハ。身筋
意ハ佛道^{アハシム}。入^{アハシム}。モハセ^ト。世間の利益^{アヤ}。アハシム。アハシム。
方俊^{アハシム}。此事。彼^{アハシム}。和^{アハシム}。法^{アハシム}。下^{アハシム}。物^{アハシム}
也。アハシムの事。アハシム。止觀^{アハシム}。和^{アハシム}。光^{アハシム}。同塵^{アハシム}。結縁^{アハシム}
のアハシム。八相成道^{アハシム}。以^{アハシム}論其終^{アハシム}。ムカセ^ト。佛意^{アハシム}
と。アハシム。成道^{アハシム}。化儀^{アハシム}。と。アハシム。世間の苦^{アハシム}。者^{アハシム}。養
ハ最上^{アハシム}。福^{アハシム}。然^{アハシム}。善提^{アハシム}。に。アハシム。阿^{アハシム}。モ^{アハシム}。
アハシム。淨土^{アハシム}。よ^クアハシム。引導^{アハシム}。事^{アハシム}。汝^{アハシム}。アハシム。老母^{アハシム}。
吾^{アハシム}。根^{アハシム}。優^{アハシム}。劣^{アハシム}。たゞ^{アハシム}。月^{アハシム}。のえ

なづく。月あらう。うたはきらむ。月のうりひくを

る。教養も菩提心よりかよべくまうや
生類と神明水供もくろ不審の事

安樂の嚴嶋。菩薩心形持れむ。人を力く無能

もくつり。一傳す。其ゆこと。あらん人アセテ。首

弘法大师と多情一経ひて。甚深の法味とさげ説

ひりの時。示現は行す。モモロ。内不動真事。モリ

モリ。アミタ。多き。モリ。我身と別の不

動を作つば。未代よ。菩薩心形持もほ人のまうす。

道心とたびと。モリ。多ひ。モリ。うも活りゆきと

活りゆきのへ。じうじうり上へ。モリ。モリ。モリ。

もうの事。そりんゆうと。が。或上人。多ひ。モリ。

社頭の様うんと見り。海中れうう度。う

菩薩也。慈悲と。うねう。人を救生と。角。う

め。う。此様もかく。ふきんなり。と。ハ。う。う。う。

此事事と。先お持。モリ。示現ゆう。ありけり。が

と。よぬちんう。下。毛ハ固果れ。と。う。う。う。

う。う。う。う。の。余と。う。う。う。う。う。う。う。う。

僕せんと。思ふ心して。う。う。う。う。う。う。う。う。

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

お入方後となり。仍我らノム。報命つゝう。う
うふと。しりて。うく。うく。うく。うく。うく。
ハ。ふ。う。ん。も。よ。て。う。く。江。列。の。も。あ。う。う。う。う。う。う。う。
漏。人。う。り。て。殺。え。ん。と。ふ。り。う。と。山。傍。あ。ひ。う。う。う。
て。め。う。
ツ。く。今。日。我。命。と。た。と。の。め。ふ。事。だ。き。に。奉。え。る。
ゆ。う。
孫。か。く。う。賀。め。れ。り。よ。に。なり。て。む。え。の。方。後。
出。離。と。く。船。な。う。に。命。の。ひ。能。ぬ。と。う。う。う。う。
れ。色。よ。そ。云。け。り。よ。古。あ。船。よ。河。を。江。列。の。湖。と。
く。く。船。の。船。よ。れ。へ。う。事。き。り。よ。一。祝。よ。山。法。師。
一。祝。よ。山。法。師。じ。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
此。諸。と。う。
う。
生。あ。か。り。の。ハ。う。
海。う。身。よ。入。ま。り。へ。我。を。入。れ。ゆ。よ。我。行。業。海。う。行。業。
と。奴。く。る。く。る。く。出。離。う。べ。一。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
なん。じ。う。喜。提。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。
う。
う。
字。教。の。言。特。と。家。う。て。鹿。鳥。う。ん。う。と。た。ひ。う。れ。も。
此。う。う。う。大。權。の。方。後。ハ。凡。走。か。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

伏れ法も。せつある人のあるわざとなつ。暴惡なりと
行者。慈悲利生れ意樂よりして相伏らす。まう
なまき思想よ。心とやめ後生に善提と
さかとづり。只怨敵の心とぬくわせん。彼法の意
意はあるも。まうて罪障をうへ。又法をなれ
る。まうて殺身災難もある。罪障をうへ。され
て。佛法のうへ。戒りとぞきだり。般若と
法味とぞきだん。こそは補導よ。うづま事
にて。ゆき。真故ハ漢土の儒道。二教とぞトウヒ
ろり。牛羊祭と以て。教養せまつて。天竺
古德の多く。佛法がちやく流布。奈がトハ天竺
の善薩。漢土よひまれて。えみ典とむろう。足母の
補識あふ事とぞきだり。教養れ多き。と教
て。併法の方役とぞきだり。まよじと弁典のよ
いと。權教とぞきだり。まよじと弁典のよ
いと。佛法流布。とぞう後。釈教とぞきだり。あゆ
つとあくたう。信の齋う。佛法とぞく教養
の儀とぞきだり。とぞくうよ。我國の佛法の
名字もきだり。因果の通理とぞくうよ。事と
とぞくうよ。佛はの方役とぞきだり。がく地の

御心とぞ。ひふ法はす。もつまうりをど。首の
わきとぞ。法味とぞ。がんと。まくまく。鉢
をかづく。てまへ。へゆきゆき。なまと。ぬれ
まくまく。そかく。思ひまくまく。心は。まくまく
或まくに。さくね。とつ。祭と。あく。て。ばねと
てまくまく。そくね。なまむく。まくまく。あく
の面と。れ。威と。ゆう。そ。神氣と。あく。まく。され
然壁と。まく。ほの。身房わらう。そ。遂此禮。那の
身房か心と。ありく。しと。其心と。ひきぬ。まく
そ。遂れ。せと。たゞ。事と。まく。と。あとの
身房。まく。身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
長ちる。まく。身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
も。食ひ。まく。身房。かく。身房。かく。身房。
人主の氣色と。ぞ。何事と。ぞ。身房。かく。身房。
同門と。ぞ。身房。かく。身房。かく。身房。
て。身房。と。身房。と。身房。と。身房。と。身房。
といふ時。まく。身房。かく。身房。かく。身房。
身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
まく。身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
まく。身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。
身房。かく。身房。かく。身房。かく。身房。

ソラニモハナラニ事。ソヤハカグヘビバセ
シラヒミテナシカツヒアリ。アゲテリの食
テアリキモアリ。アヒアリケリ。モアシテリの食
テアリ。金ナナリ。總體トノハ。死と。金ナナリ。ソ
シ。人ハ。トナリ。此事。かくも。事
モナリ。モセ。世間。被。多。アリ。ソノト。モナリ。
折。レ。レ。レ。レ。只。女人。多。アリ。アシテ。モナリ。
ナ。集。制。モ。アリ。月心。欲。變。ナ。モ。ニア。金
モ。ナ。ト。モ。ア。命。代。モ。ナ。モ。祇。變。心。ナ。モ。ナ
ヒ。ナ。レ。集。制。モ。ナ。ウ。レ。ナ。モ。總體。モ。ナ
レ。講。行。ウ。人。ど。モ。ア。リ。ハ。ギ。地。ハ。帝。意。モ。ア。リ。
少。ア。和。老。戒。モ。ア。リ。ハ。ギ。地。ハ。帝。意。モ。ア。リ。
山。ア。ゆ。リ。ト。ニ。靈。驗。ア。ト。ナ。リ。社。ア。リ。山。モ。世。ハ。今
モ。ト。ア。ハ。牛。羊。鳥。鳥。ア。ン。シ。モ。以。多。シ。ハ。モ。ソ。ツ
休。只。モ。金。也。ナ。リ。或。時。ア。方。禪。師。彼。金。と。オ
テ。休。行。き。の。不。可。有。云。て。モ。ア。シ。モ。ナ。リ。オ。ク。ト。ニ。シ。テ。ソ。リ。其。時。多。安。ニ。ス。
俗。一。人。見。レ。ト。密。ト。シ。モ。ア。リ。ト。禪。師。ト。禮。一。ト。云。
我。ア。シ。モ。ア。リ。ト。モ。苦。患。ト。ア。リ。ソ。禪。師。ア。益
生。ト。祝。福。ア。リ。ト。モ。大。ラ。モ。リ。ト。業。苦。ア。リ。モ。起
て。天。モ。生。ジ。其。本。報。ト。カ。ア。リ。ト。モ。ア。リ。ト。モ。ア。リ。

也。般生とて、まつもと。神明苦とくも。清淨も
法味とくも。け。甚深の義理とくも。樂とくと
あり。これ意を得て。罪なき供ねとくも。け。也
取法味とくも。かべ。也。

和光の本般よもぐ妄念とやじうも。

上總國高鶴と。彦の地。ひ。熊野へ。年々。さざで
く。う。一人。有り。かど。じ。さ。かづ。え。づ。く。は。ま。さ
が。ため。う。を。思。ひ。く。れ。お。具。て。ぞ。ま。ゆ。で。ま。故
い。女。じ。め。くら。く。わ。く。り。り。つ。と。熊野の師。の。房。よ
伝。ぐ。れ。阿。闍。梨。ど。よ。り。み。わ。く。さ。僧。有。な。き。承。の
者。え。く。ら。じ。比。じ。も。り。と。う。し。が。く。く。く。く。く。
ひ。く。く。そ。そ。く。り。く。ぬ。よ。祓。淨。行。心。す。ト。あ。り。で
灵。社。み。く。は。法。と。行。せ。ん。と。思。ひ。く。と。う。か。悪
湯。よ。あ。い。て。ま。う。孫。ん。か。ま。う。ご。こ。事。ロ。行。ト
思。ひ。て。下。手。と。と。櫛。現。か。と。此。心。底。の。篤。と。祓。精
志。け。き。う。と。見。に。う。く。う。く。ハ。み。の。而。新。く。ら。ま。ひ
て。ウ。シ。モ。ト。何。ド。ミ。テ。モ。ウ。リ。ク。被。を。モ。ビ。う
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。

つま。字游へた。ゆめ。アキリ。モ。カド。ソ。ソ。ル。ハ。
ハ。シ。テ。リ。リ。シ。ヒ。リ。ラ。ダ。ミ。リ。ト。ス。鍾。倉。の。方。ゆ。レ
レ。シ。行。は。函。う。リ。サ。ク。仰。ウ。フ。ス。幽。き。程。と。う。を
游。う。く。押。修。居。ト。カ。ム。ミ。テ。マ。リ。ヘ。テ。キ。ア。ム。ミ。く
仰。ク。ミ。云。ミ。テ。ニ。函。ウ。リ。モ。カ。リ。モ。や。く。の
リ。リ。ミ。體。モ。ア。リ。モ。ハ。急。ぐ。く。因。含。ミ。様。モ。ミ。経。
レ。ミ。ミ。シ。メ。ク。ク。シ。モ。ギ。シ。モ。其。心。モ。一。ナ。モ。バ。シ。モ
ゆ。う。あ。シ。ク。う。シ。ヒ。リ。て。志。の。び。く。か。シ。ハ。シ。ル。
だ。シ。ハ。心。モ。ア。カ。ジ。シ。ハ。行。シ。男。モ。一。人。今。で
ミ。ア。父。母。ニ。モ。ミ。テ。ク。シ。ハ。シ。ト。レ。ヤ。モ。不。忍
シ。れ。ゆ。そ。年。月。と。遙。う。往。ハ。だ。一。人。じ。し。も。か。遠。む
力。が。よ。ゾ。ど。そ。モ。極。ア。レ。此。僧。モ。カ。リ。シ。者。ハ。モ。ア。リ
ち。ち。キ。ア。シ。に。あ。常。代。者。ハ。ア。リ。シ。上。さ。う。く。あ
く。キ。キ。シ。な。ん。ざ。モ。ア。シ。ア。シ。シ。モ。カ。れ。ぐ。今。父。モ
ト。シ。タ。て。ま。う。シ。ウ。モ。シ。鍾。倉。ヘ。モ。代。官。ト。ウ。ガ
セ。物。ハ。沙。活。ナ。ん。ざ。モ。う。シ。シ。モ。ア。シ。リ。活。シ。シ。
シ。
シ。
シ。
シ。
シ。
シ。
シ。

まよ遊へたゆめとありとどもまだつぞりひて
いはうでたりぬひとくぞとす。鎧倉の方ゆじ
え。僧行よぬうりゆくゆうつう。通き程とうを
路つらく。御住居もかくてありんえ。氣をもく
仰ぐと云ふと。あくよりておりゆくやくの
りぐる體よりきと。おづくに金持様も三経
のそと。さうめうま。がくも。其心さうなき。ばく
ゆうあくくうとひりて。おのびくかくひく。
たゞひの心さうわくかくび。かね。程に。男め一人そ
まく父母。とくとく。かくに。うりて。やそ不孝
あくちりきとく。おづいて。怪うり。有りく人て
うれみて。年月と遡る程に。だく一人しもめかきとむ
力もよびとて。怪うり。此僧もわく者ひもり
うちかく。うに。弱者。者ひもり。お上。まく。あ
く。よ。途。なんぞ。すく。うなき。おも。秋じ。今。まよ
じと。一たて。まく。うそ。鎧倉。と。代官。と。う
せ。物。の。沙汰。な。ん。ど。う。か。う。り。縁え
ら。歎。よ。く。く。か。う。り。き。と。づ。さ。り。そ。は
う。り。子。た。も。あ。二。人。そ。ま。あ。此。子。十。三。と。云。う。り。年。
元。服。れ。あ。よ。鎧。倉。の。用。う。き。の。具。足。を。用
意。一。そ。転。あ。ま。く。あ。く。く。海。と。う。程。い。そ
う。び。う。く。波。う。う。う。此。子。よ。う。じ。よ。う。そ。え。

あやまちよ海へ入り入ねあまくとんちもあつて
みどりしゆりげておひそきうぐとらひくの先
ある十三年ぐ間のあすとくくと四の門いく
かに只取の時れ往つての間題だといひが玄え行く
たゞしうるあるまん只志づくの喜えをゆべ
候あゆうとえあくこゑうと云ふと云
て、庄じぞきうりゆうとうと。無跡こそと云
ひうま。相克の内方後もて、一そあうけめ。昔莊園
竹時代の神づりの中よ蝴蝶とぬて百年うち花の
薙よあそびとみてさりてども志づくとてかく。
莊より云。莊園く成るやせんと云う。ゆくとよはう
やくと見ゆ。共に見なきとも。わざぐくこく
と云ふと見ゆ。凡モ三界の輪迴四生の物變皆、^{もと}安
明の眼の中の妄想の夢なり。すとぞ圓覺經よ
始知衆生本來底佛生死涅槃猶如昨益夢と說
て誠にさうとひくまで凡もじ益始の生死始
えの種もん。只一念の種なりや。が是不生の心地の
うと種なりもたく。夢とむしゆ。とてのころを
古人のいふく。昨日の夢。別なり事
な。是の境も事と云ふ。あまきもあまえなど。事
へ事へと時へあきて、はぎにゆく。誰の名をく

人。狂めし。見と。殊たりと思ひんとす。ゆくに
ゆきこもりうそ。まことがくゆき。狂の幻乃
世上の事。心わらん。今うごくべべべ。梁の武帝
ノ時じう有多事。帝是どくろもんとあひにぞ
ゆりとくづり給り。腰の寝殿の夢ニワ鶯とな
まくうびうかくづり。うけうまえと。妄想
奏していふ。今日昌ト二人夭亡と。帝か
う宿に。臣二人鬪諍。て六よ天亡と。帝か
どうこそじうと。て昨れゆめハゆしハゆ
えうらんと。御くか此事だづべ。うかや
修くせんじ。かく後わくへんじ。即

法相もへ常の妄と因て。獨散の意識を。圓
昧の意識共えり。教うざまとゆて。明引の意
識の多と云う。明闇とも。異なれど。生氣の
中れ。夏へ。唯識論れ文。此心奴。一。樂天が云く。紫
桔事。過都成夢。憂喜忘便是福。と。ゆくと。れ
ハ事す。も。じう。も。よ。時す。あくと。よ。
自性あきゆよ。生ゆ。も。不。生。あり。
諸法と。あくと。も。て。じう。も。び。かく。う。も。と.
えなく。心地寂靜。あく。自然。よ。空門。相應。と。き
よ。え云く。種の功。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

捨身

愁の時亦不愁。文の意よき事れゆ中へ

ハ喜色憂色せどもじて事の。報うる事や

思ひつあへば世間の事。皆是憂事。生と死

えび死と生と。會と樂と離と。心事。死憂

ともうう心。死事。心と死

八節空門よへば人也。口に多く禪とせん。心に絶念

忘て寂靜かうと禪と云。庄子生云く。

狗不以善吠鳴良人。ハ不以善言爲賢。云々。ば

法門と云。人。心よ名利又欲。思ひ。口に便

ハ空門よ。梵網。身云。口便説。空門在有中

云。未代の真實。口多々。道や。もあらん。今

口小法と云。心少法と行。口の事。心の事。

を事外中の事。とゆ。口の事。心の事。熱心ゆく。

豪氣あり。唯識論。云く。未得真覺恒處後

中故佛說爲生死長夜と云。慈恩大師。八有心外法論

生死。是知一心生死永棄と。給。生義の

長夜を。生義事。心外は法と。妄境。心外は

相。心外は心外。心外は法と。法と。心外は

心。心則法す。生。生と。一つと。心外は

人。心外は。と。三有。眼と。耳と。口

淨土門の人。神と。妙法門。罰と。口の事。

鎮西。淨土宗の學生の俗有り。古鏡の中の神

田と検注にて。餘田とうる社僧神官等つらふ
事也。鑑倉も訴訟へりを。餘田とうる事也。
乃はや本分道理也。多か所なりけりる。地
代く。一方極うだん。こそハ呪咀。一もり全
てひきども。づくも。とくも。事す。いふ
呪咀せよ。淨土門のり人。朴明さんと。何とぞ
がく。捨取れ光明と。ゆりと。神明裏
いそ。罰。一もり。ごとき。とづきあひじきり。
え。朴人。も。つまと。ゆり。く。と。呪咀。一も
経た。く。経。く。も。う。さ。病。つ。く。と。捨取
れ。ゆ。く。尾。ひ。ぎ。り。き。く。ね。どう。も。く。と。我。故
養とも。朴。朴田とも。ま。う。く。と。我。故
ノ経。く。な。く。く。り。き。ど。う。の。ど。病。ひ。身。う
切り。て。だ。の。な。く。く。り。き。ど。身。身。う。て。神。明
と。も。う。も。り。あ。病。者。れ。く。く。は。く。と。廻。り。て。ま
り。て。神。田。も。く。ま。う。く。セ。と。く。う。と。神。田。も
れ。く。て。ま。う。く。も。あ。く。と。つ。ふ。病。人。抱。く。う。う。き。も
く。も。頭。と。神。じ。て。何。系。神。と。ひ。く。お。も。の。う。み。が
浦。ひ。き。そ。く。ま。う。く。と。の。と。く。内。す。く。朴
つ。く。も。う。く。と。の。と。く。内。す。く。朴
て。病。人。ハ。朴。田。も。く。う。く。と。の。と。く。内。す。く。朴
う。く。も。う。く。と。の。と。く。内。す。く。朴

ひく。びとゆらで。かへて。神とつておとや。か
くの心や。紙へが地十一面の化身也。印師の在處
の本尊とたの。心有て念佛とす。まよ
いよつて行くもよくなつこさん。とよりやよ
きよかく濁。まよなむひては。うそをうぢる相
應。まよそそくとつまよじきと。まよく
とほほひりまど。まよとまよ金れなまど。ま
よくまよてゆらあうくびきと。まよ
てゆら。意を後れまよ。年來の師。函多の生若知識
て。念仏もまのけまよ。まよ有れ余下うきゆくりま
よ。元ひよと。白山院權現。わうくま
まよてと。ちうどと。紙へ制。アレしづ。まよ
め有て。まよと。紳へ制セ。事へ
まよてと。まよと。まよと。心切なうゆ。心中
了然と。娘。まよやと。まよと。まよと。心切
まよ。彼子息家と縫て有り。まよと。紙へ制。事
棟。まよてと。まよと。まよと。まよと。神れど
まよと。まよと。まよと。まよと。まよと。神れど
まよと。まよと。封。まよと。まよと。まよと。酒盃持
まよと。紙へアラガドム。手と。まよと。まよと。
まよと。紙へアラガドム。手と。まよと。まよと。此事。

且ハ今より繕りゆく。前世の事才をもて。すす
びつる人多くゆ。彼子孫觀教あらず。其
ちぐりゆき。人によへりん。すすむ。ひ。お
祚は威のう。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
とつて念仏家ハ濁世相應の要門。凡夫出離の直路
あり。滅する。自ら。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
余の佛菩薩。祚明まで。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。
とつて。余の佛菩薩。と。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。
とつて。余の佛菩薩。と。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。
念佛家のう。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
一義。すすめ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ。
行の性生かく。ゆ。觀經の文。釋の中。すすめ。余
考養父母。五戒八戒。世間の八戒。すすめ。向。すすめ。向
生もすすめ。すすめ。雙觀經。四十八戒の中。すす
め。十戒。すすめ。稱名念佛。も。ゆ。第十九。ハ
諸戒功德。と。修。すすめ。向。也。事。運。と。べ。と。ち。の。第十九。ハ
德本と植轉念。と。修。すすめ。向。也。事。運。と。べ。と。ち。の。第十九。ハ
うりづき。祐。の。中。すすめ。び。すすめ。う。て。一。戒。すすめ。う。
祐。本。也。餘。け。ハ。想。の。生。因。凡。戒。すすめ。う。傳。也。ま。う。
ま。う。ば。そ。性。生。で。ば。と。へ。い。ぐ。ま。う。善。導。凡。戒。
す。も。萬。行。俱。迴。皆。得。往。一。切。迴。心。向。安。樂。と。釋。す。て。
萬行萬善。すすめ。向。也。修。すすめ。向。すすめ。向。

乙。羅行ノトハ釈。雖可迴向得生。衆名蹤雜之事
と釈。一過り。身も心も。身も心も。有も無も。往生
せばとは云々。餘り往生ゆるも流れる義。
云。三心と念佛と心めて。三心具足して餘りと修。
往生もくは念佛の往生也。三心なり。餘りは往生
め。諸行往生やうと云う。此事心得らまこと。三心
は安心也。づき行業すわうべ。すまむを安心
三心起行。念佛作業四修と云う。稱名も三
心もくは生じて。さうへ稱名の念佛といふ事
ト。即ち念佛と云。法行もこうべ。たゞ
稱名の念佛の中の肝心也。慧心の往生要集代
念佛れ下る。總行有之。坐禪ハ法則念佛。經咒ハ
報身念佛也。下相好と念佛。名号と念佛とも
應身の念佛也。餘りの往生と念佛往生と
云と此意。そぞく。ふうくわ。稱名れり。ハ
往生で云々の主義ハ乞うり。や。いそんや法行と
詠。真言と云々て往生の素懐と云う事。
經文と云々。傳記と云々。三國の史蹟是れ。云々。
さて大乗は功德と云ひ。ひつて。餘教。餘
益と云ひ。うち。身の事。御くべ。云々。云々。只
作で本教と信。一。勸。念佛の功と云く。餘行。餘
家と云う。餘の佛菩薩。祚明と云う。しる事

有べば。ばんげんの際終よ。其とがアラムのうり。余車
のうり。うりハ後車れの角めかうり。真實ア
往生のゆき。あらん人此事とわざまつて。さうり。
經ト。唯除五逆。誣謗正法とさう。けもあじて。く。
但ト。や。アリ。うらう事。まくとく。又化れ。まく
ゆう。で。まく。不ぬは一義。アのうんと思ひ。ゆう。
餘の往生ゆうも。流き。殊地とすり。而て。
實。よ。う。れよ。う。と。や。其のへ。殊地ハ慈懲廣
大。も。萬行萬善と。修もう。人。と。じ。う。
極樂ハ境ひ。邊あり。餘教餘家と。な。と。
卷三
余の淨土。と。して。我達超世取れう。ひ。と
たの。廣大無邊際。圓を。見ゆ。う。ひ。と
餘行餘教。ハ。と。ひ。と。と。被て。往生せ。ゆ。と。と
佛ハ慈悲。と。く。圓。ま。ひ。セ。ぐ。と。と。是も。と
あり。乳母。娘。も。と。母。か。ひ。て。お。ま。う。と。と。う。と
て。わ。べ。が。胸。か。の。母。君。ハ。ほ。ま。う。の。う。と
目。ハ。わ。も。く。う。て。愛。う。く。ふ。い。う。と。と
つ。と。の。目。の。り。ま。う。と。物。と。と。と。と。と
手。と。の。胸。と。自。と。ち。う。に。が。り。ひ。う。と。と。と。と
思。ひ。あ。う。と。と。被。ゆ。と。ゆ。ゆ。と。と。と。と。と
行。う。と。や。余の往生ゆうも。流。の。中。と。義。

まく也。或人師の義も。餘行の往生也。云々。
三心と具せざる時の事也。三心と具しまじ。餘行も
皆念佛となりて往生する。名号と三心の心也。
三心なく往生するべし。と云り。此義からば餘
行の往生も。云々。
三心なく往生するべし。と云り。三心なく往生する
佛弟子も往生せよ。餘行と念佛と。まづくらむか
事なり。先達はやうるをうむかく。後様と
いふ家とちろじ。意も。一云ふ。未だ在家人
きんど。是とぞげりときて。餘行とぞ。あき
る。中比念佛門の弘通うりゆりうき。餘佛
餘(延命)のくわく。うりゆりうき。うりゆりうき。餘佛
た。或の地藏の頭。うりゆりうき。うりゆりうき。餘佛
或室中の隣家にあらず。ト女は中よりうりて隣の
家。地蔵は見て。目めりとまでうりつゞく。
うりと云うり。うき。うりゆりうき。うき。うき。あは
淨土宗の僧も。地藏菩薩供養。うりう時。阿彌陀
仏のうきよ立ゆると。後が。うき。取とあらへ。う
き。うき。或淨土門の人。地藏信せん者。地獄もあ
る。地藏は地獄かねくどう故。と云り。まづば地藏觀
音。利生方俊よハ大悲代受苦。うちうるを経よ
て地獄ト遊戯。一て。それをうき。地藏よみう
る。此れ佛體のうきとぞ。ば。若別考

あらまんゆきのへりを。又この圓は。半部は法花
經トもまう持經者ありたり。あるが念佛者も
あり。念佛門に入ると。法花經トも考へ。かくば
地獄よ入也。何とまう。此非障うり。難行のみ也。
此とすまう事。もと云ひと信トて。さうも一面
半念佛とす。まう。半部。半來經と名ふ事。も
半す。どうぞ。もと起居。よつて。やまと。その
やまと。心のひまも。かか。邪見。因縁。よ
やわらき。まう。ひつま。ねくろり。くち。經
経。布。やく。との。もくらむ。もと。そ。ひ。我をす。
くりびゆ。もくらむ。ひりて。血。もくらむ。ひりて。うし
あらまう。罪。まう。げ。て。まのじ。ひ。よ。苦。くらび。か
ひり。又中比。都。よ。念佛門。流布。一。て。西人
の性生。と。まう。と。また。成。と。たり。津
し。人。難行。と。性生。す。が。ま。ゆ。と。曼荼羅
本圖。一。て。だ。う。げ。な。う。僧。れ。經。よ。と。居。う。う。ト。ハ
え。的。ま。う。と。て。教。生。ま。う。者。一。移。取。れ。え。の。ま。う。房
あら様。と。まう。世間。よ。と。わ。ま。う。か。比。南。那。ま。う。
そ。み。へ。養。狀。と。た。まう。事。め。り。け。と。其。狀。中
ト。ま。う。彼。地。獄。の。繪。と。ま。う。の。ハ。無。と。ほ。う。

事。此曼陀羅と稱する。ハ善と修せ
リ。とくに。四句と解て。也と解る時。
善人。惡性。有て。上。善人。下。惡利。以心病り
て。ぬ。なき。惡人。惡人。宿善。あり。上。六。惡人
と。心病。す。本善。も。あり。道念。も。行。ハ。ぐ。の
も。故。と。愚癡。直傷。偏執。我慢。も。ゆ。も
て。持戒。修善。人。と。バ。惡人。す。雜行。たり。種子と
ゆ。ど。者。と。モ。里。う。り。愚無。不善。の。者
と。善人。なり。採取。ため。よ。モ。う。べ。性。中。決
定。と。し。う。教見。も。ゆ。き。が。う。う。づ。き。う。く。
先。ハ。聖教。と。と。多。ト。久。童。よ。ち。づ。き。う。く。
中。ヨ。ハ。ゆ。き。う。く。過。地。ハ。在。俗。の。中。が。く。れ。圓。情。
ゆ。ふ。中。と。仰。り。念。佛。門。つ。ま。な。べ。天。台。真。云。禪。
門。あ。ん。と。ゆ。と。色。圓。法。宗。流。し。ん。が。り。く。邪。見。の。義。
門。仰。れ。し。や。も。ひ。く。あ。み。と。智。者。よ。親。因。し。
聖。教。と。知。識。う。て。邪。見。れ。し。や。一。入。を。う。し。此
少。い。心。地。觀。經。ト。人。菩。提。妙。果。て。取。が。く。う。り
わ。い。ば。真。代。善。知識。も。而。て。よ。あ。ひ。ぐ。た。れ。う。り
う。る。古。德。ハ。出。世。代。明。仰。ト。遠。れ。ぞ。ま。げ。て。古。葉。の
法。藥。と。眼。も。わ。づ。り。天。台。代。祖。仰。も。利。根。れ。如。道。ハ
邪。相。と。正。相。よ。へ。ま。え。邪。法。と。學。て。正。法。ア。銕。根
ハ。肉。道。正。相。と。以。く。邪。相。ト。へ。也。正。法。と。學。て。邪。法

三
正法と釋
後をり。六祖大師も。邪人正法と
り。正法邪法とたり。正人邪法と統ひ。邪法
正法とす。とて。正見代人。可准知中
毒。上醫ハ毒とあり。下醫ハ毒と葉と。可准知中
醫。毒と。上醫ハ毒とあり。下醫ハ毒と葉と。可准知中
之。近代も。正見代人。統ひ。如來の正法と邪
見代情不^トまる。而て。自他^トより。邪道^ト入^トき。而
牛ハ水と飲^ト乳^ト。蛇ハ虫と飲^ト毒^ト。法
ハニモ一味^トも。而^ト。邪正ハ人^ト。くは假
をも。もく。邪見のうがくと。のども。正真の道^ト
入^トき。なり。

沙石集卷第一 下終

神護寺

迎接院

正應第六之曆
己未春下旬之候於洛陽西山太原
野^ト邊^ト書寫平偏是書寫弘通之志者仰和光之
方俊停無窮之生死正愚癡之妄見開菩提之妙果耳

片山貪士

春秋四十四

乾元第二之曆
庚未春之候此書道證上人奉渡半

遂慧

波石集卷第二 上

目錄

件全利感得の人之事
某昨利益す

何事あれば

某即般若の事にあつて全利益之事
地主の人と看病一病よ半
らまく不思議く利益す

源氏集事第二 上

仏事利感の人の事

ハラウムア。生まとよへたちうり。年來。まと
河内つらふ。生まとよへたちうり。年來。まと
あ仏事利。とくれば、ゆくべ、不室三翁の
一心廻礼の者。まよひの文をみて。まよひ目入百つ。今
まよひは、なげく礼。とて、まよひ一。終。ま
さくねんの後。まよひの廟。まよひ。とて、精誠
とくして、まよひ。まよひ。まよひ。廟。まよひ。老
まよひ。まよひ。まよひ。廟。まよひ。そ
か。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。とて、まよひ。まよ
ひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよ
ひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよ

かくまく。まもろさりたまざよひ。サニダ
リナラゲ。アラホ人か。シモウモヤウリ
モシハとそひあ。風とむとうて。キ
ツ風ふがほざんと。ありて。アラセ。アラセ
おもふ。ヨリ。おさんや。アラセ。アラセ。おもふ。後
事。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。
アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。
アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。アラセ。

神も。さうあり。かまひも。どしここ
タれ。变化のへよ。て其後も礼一付で。お
邊のうちも。と。うそりうそり。わく上人。か
みのあやまち。おけいも。くまくまくまく
がく。徳。事。めらう。おぞれ。かく
徳心の有。くまくま。げ入道。まじら
トド。徳心。あく。れど。感應。ひき。くび。確
た。實。徳心。あく。れど。感應。ひき。くび。確
徳。道。の源。功德。の母。と。う。だ。山。か。入。と。
ひ。く。と。く。信。の。あ。な。き。と。う。徳
み。二。つ。も。解。信。ハ。智。慧。門。う。法。の。解。と。解。ア。シ
く。信。と。解。信。ハ。智。慧。門。う。法。の。解。ア。シ
徳。行。門。う。法。徳。と。う。や。と。大。乘。佛。は
徳。情。の。行。う。と。ど。う。法。徳。と。見。作。て。徳。と
ゆ。う。ま。う。ゆ。と。入。こ。法。慧。と。舍。利。弗。も。う。ん。と
う。く。入。ま。う。と。徳。と。入。ま。う。と。バ。一。剛。提。と。う。宥
て。徳。か。な。う。ぬ。り。と。う。わ。う。を。無。人。山。と。う。も
徳。と。う。ん。じ。世。る。巣。ゆ。く。た。の。え。病。ゆ。と。う。も
ハ。業。ま。と。う。と。う。が。病。ゆ。く。た。の。え。病。ゆ。と。う。も
う。う。と。う。と。う。が。病。ゆ。く。た。の。え。病。ゆ。と。う。も
す。か。か。わ。付。る。と。う。と。う。が。病。ゆ。く。た。の。え。病。ゆ。と。う
じ。仰。の。変。た。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

さくよそとあんとあんじ。らすりみをは
し。まゆかうり移ふのすととたすと
や。若れやくとく。やうもとくもとく。
こまこと後のひんとおうゆの中。磨わすと
仙力と現じて。仏道とならんや。かんがたす。
ていいく。せきあれとくとく。身と。血と却
墨と。わのとねて。筆とせは。仏法と流べ
つけよ。信心ゆく。い。云がくとくとく。は
信心わくゆ。磨ハうる。仏法。いとくとく。
か道とくとくとく。又在世。晚生。かの老比丘寺
にあく。信心ゆく。い。我か法果とたくとく。
お。云がく。やまとくとく。おんがたす。頃り
の時。経つと。おんがたす。頃り。まろ
れやうなうれと。是こそ初果とて。頃。おなぐに。
ゆくとくとく。またとて初果となつ。初果はとて
はとてとくとく。又二果とてとく。ひや。才四果
まく。歌にゆく。道のくとくとく。ひや。お説見
比丘とくらむ。とくとく。謝志。鳥羽
法室山へ。辻幸をうながす。前唐院の亥翁と聞く。
大師の門たゞ地主のりんをうながす。園。かうの
あぐれと。あわうむく。山たてのあうくとて。山修こ

まへば。大師の口時より。ひたゝれとくもと
そり。そり。小納へて。伝西アラハ。あまを
禪織とす。止死のモセんは時。つてをく。
ゆうき。ひめらト。モセのねどくもく坐禪。作
物とす。又杖のままで。固ナリ。獨とつもとづ
れ物あり。また法杖とす。させんの時。方ナレ
御ナリ。毛とす。つま。又本とす。せや。す
そろと。助老とす。老僧行もんの附。く。つけ
ま。脇とひくやと。作大體。脇足。ゆせのせと
タク。本とす。毛とす。か。す。あ。の。ま。く。と
あ。り。ナ。ヒ。名の。あ。ふ。も。ひ。あ。で。
須利。薦持。あすり。銭持。あすり。と。も。も。
と。せ。り。止死の法門。あたゞ。止死。ハ。第。ノ。
止。ハ。掃。グ。と。と。と。と。と。と。と。と。
ゆ。こ。と。と。掃。と。と。掃。と。復。す。往。と。事。と
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。仰。う。と。一。文。九。句。の。あ。す。と。一。偈。と。と。一。偈。
あり。守口持。と。身。真。祀。如。是。行。者。得。度。世。と。文。方
そ。ろ。ハ。足。と。ま。う。と。安。諸。も。せ。と。ま。う。と。ま。う。と。
え。念。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。ま。う。と。
ま。れ。と。の。ま。え。と。ま。う。不。と。ま。え。盤。特。と。ま。

智のあり。凡ての事は行せば。一偈一句の下
小通とれる。讀よま。千章と稱せん。うりまく
一句とぞ。なぞえんよとこつて。又いうふ。うのよも心
をたまへて。餘事とすねど。いとよそ。
一切の事とくにまつて。正と云は。一切の教念かく。うりまく。
なたえ有爲は。か邪へ。妄念ハ利。正也。され信ぬく。ハ
左より下

菜師利益の事

ゆきられ。園中那と云ふに草堂ある。菜師如来
とあんちに。モ。堂うらめ。或。十二三。うりまく。小
室。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。
童子と負て。家へ。ひり。まほと。ひり。
すみうりまく。菜師。ひり。地取。あ。うらめ。じう
まほく。童は。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。うらめ。
金。そには。師。小。取。く。菜仕。一。て。ゆ。と。うん。あ。時の
す。え代。あれ。と。感應。の。じあ。一。う。事。も
有。へ。文。水。の。じ。あ。れ。う。ら。も。や。一。流。よ。淨。淨。と。う。
もう。う。の。圓。あ。う。う。社。頤。お。わ。り。ま。下。う。男。今。年
十一月。大。六。日。し。も。あ。日。な。よ。つ。か。と。て。う。り。心。
ま。く。それ。れ。神。宮。寺。に。ま。る。が。一。て。菜。師。如。來。ト
き。禰。れ。と。ひ。の。年。三。月。大。六。日。の。東。ま。ス。ま。一。人の。便。遠。

汝もまく。日見るよりくと傳へ渡る。日は
かまくはとせぬ。たゞうげと傳へゆくと
ひきのむかひとせぬか。やうそ聞てうり。り
り一木ぬく後。よじてうちをと。日がえく後。
えつりひとくわゆき。せめりき。社日にて
ゆきてうり。まあらわんとく人の統也。文永年
中の事

錦糸の事

錦糸。町のつりのとせんとし。漁人をうり。出く
はる女童絶えず。翁童やもさん。金糸と傳へ
人のうり。うひつ。むねにねぬ。うらはる
ひく。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
月一日みかづ。うらはる。うらはる。うらはる。心あふ
あすらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。腹
立つばかり。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。も金糸
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
あくやえ。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。腰
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
あく。年のかづのばと。うらはる。うらはる。うらはる。
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。
うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。うらはる。

まか
尾張の國山田の郡。おもむれせうの長とひの信りを
うり。義久のれはれ。あらそて。せ瀬河の下ひる底
わき。うすうすあらそて。ゆくめさへ。うらとそく。義
士を多くものうね。おもむの二人をうち。まか
五のひくまくらか。重よへく。うそとそと。お養
せらん。うそくきて。燐とく。まか。うそく。うらひな。
金の宝くらだく。うそくして。肩よけりて。まき墓を
おうじて。ゆく。わまこの底の中。かくべ残
ぬきとく。おひつみづのすりうる。びひひとた
か。せり。ばく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。
おもとく。うそく。うそく。うそく。うそく。うそく。
うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
のうれとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
うだする本のうれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
えもひの。食と血と。うれとく。うれとく。うれとく。
うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
れとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
れとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。
たひれど。毛と服と。脇の中の血をやりやうじ
て。おもろく。じゆもたとおもく。うれとく。うれとく。
うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。うれとく。

うんとも。も圓へ下がはど。下は河水まくらで。が
ひて原を經て関東へ下がはむとらひ。な
まかめうりぬ。一度もまよへらつゝあれ。もぐさ
うきんせ。ははくまくで。のせりはみづんやく。
何へともあらう。門にまかはせ。怪一人。お山寺も
まより。死ねまう。自害をまかせ。修
爲も。養も。どうもうなり。このままで。修
目とあら。こくまくまくまくまくに。狂馬がん
ごくめ。かみ。つけ縁なし。むくく。死ねま
がみをあらべ。制。制。制。制。制。制。制。死ねま
田のまの縄衆。神官のまの縄衆。やりが
は。一。社頭は縄行さんと津とて。もまくの仁まで
供。あら。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
そそゆまく。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
まくへほ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
浦うへ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ひく。わきハ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
せ。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。湖。
うく。が。か。や。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
し。底。底。底。底。底。底。底。底。底。底。底。底。底。

相換處へ來りてやうわづるべ。あべの御経へ
てゐるところをみてアタシれどもうべと云
ひゆきとおつりあらんくもせゆて。何ひ奥にて極く
みつこらを、義とある事。どうにかひたがひまで
が圓舟有り。この底ゆゑ。いかましむれう
る。源氏と今よる。其養ゆるもアヘナ
スうも。だいめ事へ。上代がひだりもあ
ま代ハ有ス。く。因ゆくとまを。ゆくとまを
もがくとま。うべに取て。だらの多ヒタリアモ
ト。あら。義の圓頂處の某所。宿
中童の某所の御衣本代切とすく。ほくうりもあ
里と。うけで。素續わく。たかさご。年東は。に
え只。金縛。うり。うりの。毛持山寺。じ。一。お玉。毛
衣の。手。かげく。毛供奉。やう。奇。毛阿。毛。毛。塗
の。翁。うり。うりとて。当時も。其跡。人。ゆり。馬。那
詫。高。と。是。公。と。た。う。ま。ひ。年。本。月。う。と。く
と。す。自。每。毛。母。三。毛。と。う。と。て。毛。り。う。が。う。周。縁。
缺毛の。人。經。娶。縁。の。が。別。の。中。毛。施。無。畏。者。被。名
と。ぬ。縁。う。と。け。娶。縁。世。夢。ハ。耳。根。利。ト。く。文
法。の。同。縁。と。り。く。な。と。う。親。音。じ。耳。根。

通の事ありて。じ與の能化ともつてまは。
首楞嚴の中。文殊は事とからぬなり。従ふて
日域の仏法の溫鶴を滅する。救世觀音が方俊也。
密教の事。ひは池の權の事と云て。穢土とて
氣淨とて。ひ假物也。通と歎。汝は乞うる事
あらむ。相也。因縁の觀音は實體と穢土と出で。自性
清津の事とて。養。倍於りて。本性とて。やがて
金の涅槃とて。蓮の水母とて。とくへ。まれば
得。自性清津は性如來と名付。もとひども阿彌
三昧耶形とて。達す。ゆあらむと。一切死生の心中
生の仮性の法施觀音。ゆ性也。以ひうと。し
蓮花は度とて。達す。觀音は半擔よあらう。佛乃
がひちゑとて。ゆべ。二切の心の心は慈性也。
一切の慈心の觀音也。亦妙法蓮花經も觀音と以
て體とて。常く半擔よ。一乘深湛觀音も觀音
圓くゆく法とて。まく。世にわざ
ヨヒテ。身も心も房をうる。法也。ゆよまく。く
多き功はりて。示現也。老病は告瀧ひうる。其
かうな人の哀とねりて。ゆくと。多さ
あげ葉す。いくと。ねて。ゆのまく。ひま
た。だの示現をさば。たとひうゆきうりがゆ

事有えよ。うにやうを思ひまく。傍を屏
風。白い衣とらひて行商でうらうま
は。屋と高きうねに。又魚の籠。大蟲衣とれ
が。ふき。柳と柳の根。物をうかづて下ぬ。ま
つまみりとつ。物をうかづて下ぬ。ま
も。後。墨と具。まゆゆ。人を。なびさり。云うけ
られ。だらり。なまき。御。もの。れ。無。あ。れ。ま。く。
う。く。と。氣。り。と。よ。風。と。と。や。と。さ。ま。や。う。
ち。す。つ。ひ。り。月。の。も。や。く。と。と。と。と。と。
と。あ。く。ら。た。ひ。づ。う。う。り。と。と。と。と。と。
と。馬。の。じ。の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

声高とて。是にくわき。かくまのうめ。と
さうゆふく。ゆとりうり。金と半あもあくと
ちをうれど。さうのゆめか。めのゆゑのゆせ
ひくらうく。ひくらうく。かくらうく。家もたう
かくらうく。ひくらうく。かくらうく。かくらうく。
かくらうく。ひくらうく。かくらうく。かくらうく。
ぬかへどもく後。まもうちりて。わく。の安
房。かくらうく。神。いみの事。も。かくらうく。
かくらうく。かくらうく。かくらうく。かくらうく。
かくらうく。かくらうく。かくらうく。かくらうく。
かくらうく。かくらうく。かくらうく。かくらうく。
かくらうく。かくらうく。かくらうく。かくらうく。
せひのちまうく。かくらうく。かくらうく。
せひのちまうく。かくらうく。かくらうく。
せひのちまうく。かくらうく。かくらうく。

身。そぞ。猶。や。を。ゆ。と。始。り。れ。じ。わ。く。と
も。と。す。あ。ふ。不。恩。供。の。す。や。か。の。夜。い。よ。と。う。夜
よ。と。有。と。益。人。よ。あ。ひ。く。後。か。と。う。や
思。日。多。り。て。常。心。を。説。て。び。り。る。心。の。愚。さ。よ。が。か
か。の。愚。さ。よ。教。書。の。ゆ。無。懲。方。後。ま。り。や。ん。教。て。そ
て。だ。う。ひ。よ。神。と。お。り。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ま。と。く。ぞ。り。り。り。凡。ま
ま。す。は。教。た。く。ひ。み。れ。と。ゆ。田。倉。と。ゆ。よ。圓。の。ゆ
の。ゆ。教。す。よ。と。ま。く。の。ゆ。く。と。か。ん。う。と。教。の。ゆ
一。ま。く。人。も。う。と。う。先。よ。と。ま。ん。う。と。み。と。う。大。聖。の
方。後。教。し。と。ゆ。と。先。よ。ま。り。う。り。り。大。聖。の

と徳せし。人每に私事とは云ひ難きより也。但
經つよ徳心清淨つて。精微と云ふ感應ひや
く。不徳懈怠めで。などと云ひあらハ利益とくべ
ある。されど。我徳心のつゝうなよと云ひ。少く
とくとくありべし。とづくハ佛よ主身無事の
とまへ。又在生身妄心智心あり。云ひて主は。妄相常
徳の法身なり。妄心と空く絶えどく。妄心是
所をてらひ。妄相妄念の報善理と相應する時。はりと
信ぞう徳あり。妄身の情識の中。極圓の方俊と作
く。信深きトセ。父母とまつて。弘法とらひ師君と童く
れあひ。じごく。じごく。とく。功とく。時世る。所量
もあり。病苦とたとの危難と。のぞむ。無能
の徳善哉。すまく才俊毛也。また無用と。笑
け。情識とたとひ。さうのそうち。毛もくして。人天深
五味生れ。ゆくや。智性あらうとせひ。而ても實をさ
せひ。もろくも妄心の中。妙用の德をあく
たり。既に報善の意に。すすんで體照とべ。ばと
とほさん。或の應化の力とくと修して。無相の能
力と修せし。或の無窮の能力と。前とて。極圓
の方俊とく。考りやう。ゆと辭て。波々く。焼
とく。身とくえ。體用無礙みて。不二體

也。もあとなへ事なう行。前生のゆゑよゆる
體え。ものと。情識ハ圓也。はくへり。只彼と
ちかく水と。應と。徳して。すの。報ひ。是のゆゑ。肉より。毒行の。はく。と。報ひ。總所と
え。と。行。無慈悲の。め。徳して。感應との
じ。一。五。行者ハ。肝。魯行。徳の。圓意也。

地主の人と看病ト終ふ事

鍾倉。帥の。傳教ト。や。家。の。門。ひ
八旬。よ。と。ひ。く。も。身。量。の。仁。を。ひ。か。に。
總法。と。も。傳授ト。不。傳。と。も。ゆ。一。そ。よ。ば
原年。十九。ト。死。ノ。靈。廟。と。も。ゆ。う。か。ふ。ト。聞。能
む。う。き。り。と。老。耄。の。と。病。入。日。う。き。が。り。て。傳。す
乃。じ。も。う。と。ん。事。と。な。げ。う。て。才。み。の。傳。た。す。矣
魔天。供。ト。で。余。と。の。て。ば。候。ハ。靈。廟。え。う。乞。慧
余。と。う。人。と。思。ハ。中。ナ。食。も。才。み。大。ば。少。年。十。
て。ほ。き。う。ア。ハ。才。も。五。く。く。ば。詮。な。ま。事
セ。ト。ソ。ア。ア。ク。を。戒。食。の。行。ト。も。身。ハ。何。く。ば。
法。食。と。ア。セ。行。ハ。人。ハ。う。ふ。も。く。ば。こ。し。あ。か。
道。の。あ。百。日。の。暇。ア。ミ。ン。モ。矣。魔。王。な。う。う。詮。つ。ぎ
致。え。ま。う。行。法。指。さ。セ。又。十。月。の。く。じ。わ。な。う。う。
本。と。月。よ。ハ。灌。頂。と。あ。ハ。う。角。さ。う。そ。百。日。ハ。加
行。固。く。始。じ。ま。經。ハ。傳。例。と。本。事。故。く。要。は。勿。ん

と且傳授。一々。そぞ私劣め。寧教の用心。て傳
へ。汝也。地益と。一戒の。なほ。と。知り。が。
太宗の。は。あ。ふ。も。一。本。地益。菩薩。身。を。逐。
ま。て。光明。真言。而。して。地獄の。衆生。と。加持。せ。今
恩。之。教。ハ。行。き。の。日。死。せ。り。そ。も。十四。日。月。忌。と。
そ。ぐ。や。そ。く。今。月。廿。四。日。から。月。忌。始。と。そ。く。住。院
の。阿。箇。梨。と。云。才。五。母。十月。母。月。忌。始。く。そ。も。で
正。月。十四。日。灌頂。の。作。は。悉。亂。な。く。往。と。な。ひ。と。
て。す。日。も。又。病。れ。り。き。ね。今。何。す。ま。ー。あ。と。
聖。財。世。対。の。付。屬。後。中。法。の。用。す。あ。ん。が。す。
と。よ。う。と。お。と。よ。と。ば。看。病。も。う。わ。る。と。被。と。も
よ。く。看。病。の。人。と。や。と。と。く。時。よ。う。と。便。だ。と。あ。か
ら。う。う。或。う。と。よ。と。ば。看。病。も。う。わ。る。と。被。と。も
よ。く。三。日。の。經。日。毎。看。病。も。う。代。モ。ハ。い。る。う
人。今。や。そ。た。よ。の。日。す。ハ。い。の。ハ。あ。ほ。人。な。す。事
の。よ。ゆ。と。ゆ。く。才。是。地。益。菩。薩。の。よ。看。病。よ。う。る
よ。と。と。く。ば。く。く。も。有。り。人。ゆ。り。ゆ。ひ。つ。う。錫。杖。
と。う。ら。く。く。び。く。く。も。あ。ひ。つ。う。わ。く。く。こ。ー。の。な
や。く。感。應。く。く。ご。ー。才。是。も。と。因。表。の。像。と。が。う
ー。タ。う。ま。く。正。月。廿。四。日。端。坐。ー。下。じ。と。び。才。是。
傳。教。の。汝。也。大。咒。地。益。の。対。號。な。ん。と。ど。あ
る。も。く。禪。宣。よ。入。か。づ。と。く。ー。と。終。り。の。才。是。

僧ノ所縁や。狀は地主の山利差アリ也。凡法久
薩の内、燈外用と御もろに内燈八臂。自性法身
明盧の全體へ外用の福るハ法王の一段と申
ギリ。法身の二門よがく本誓悲願あらゆ
利益と利益。施す。施す。地主薩埵ハ圓提の
悲願と申す。本師ノ付属と申す。金仙の導師と
して。恩賜の利益と申す。乞願す。アリ。アリ。アリ。
賢聖事と申す。本師ハ十輪經より普賢文殊。
觀音。孫勒等。恒沙乃至薩埵の利益。百劫の圓
念織。礼誦。供養。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。
阿彌陀。不殺。多聞。忍辱。大悲。大慈。と修
持。勇猛精進。ナムモ。諸のがみ。申す。アリ。アリ。
詠歌アリ。是皆。ごとう方を申す。アリ。アリ。アリ。アリ。
方と満ちうか。歡喜大師。も甚忌量。と見え。アリ。
て。然。入滅の後。孫勒出世。またの衣生と付属と申
す。阿彌陀の。アリ。智慧慈照。神通妙用。アリ。アリ。
薩埵ゆの。アリ。智慧慈照。神通妙用。アリ。アリ。
阿彌陀が。アリ。また。ひときつま。付属
の。アリ。アリ。アリ。アリ。然。入滅の後。アリ。アリ。アリ。アリ。

代の前生。俗よじきとたの。アリ。核感相應の。アリ。

おまきも利益もえじがさいは。徳の書薩摩の中
よ。てにね有路の薩摩也。を敵の歎きの一代
ノ教主。代。化。たまつゝ。實報寂光院
こうらひ。常在夷山の色身。も。報う。たゞ。す
てよ。て。す。る。ね。殊隨の六八の教する。十戒。儀。金
と。ある。と。く。花池東園の。あ。い。き。も。心。經
ゆ。の。様。あ。い。ど。の。精。雨。は。ま。め。す。も。の。わ。き。す。
地。あ。が。あ。い。ハ。あ。い。深。重。の。の。身。津。去。水。居。一。故
り。有。ゆ。つ。る。ざ。う。故。よ。へ。滅。と。と。多。く。活。づ。ば。さ。懲
れ。と。以。て。す。じ。よ。じ。わ。罪。人。と。以。て。あ。い。ま
も。う。二。乘。根。性。の。塵。世。り。財。富。と。徳。く。八。相。も。化
儀。と。あ。り。福。施。も。念。仏。不。善。の。功。つ。と。き。う。冥。目。の
え。う。く。に。ア。え。三。そ。て。來。空。と。と。も。と。れ。絶。じ。が。う。ふ。
様。極。の。觀。と。う。と。も。と。び。臨。終。の。タ。で。と。と。と。と。
ミ。ト。ナ。く。よ。六。鈴。の。ち。ま。く。め。ト。ら。且。言。よ。罕。の
族。み。よ。て。孫。な。も。死。生。も。く。被。た。もの。説。ひ。お
び。と。み。も。く。説。よ。と。や。況。ヤ。一。波。一。夢。の。正。教。考
わ。れ。ハ。終。の。始。と。は。虎。の。山。ひ。う。う。と。と。八。家。八。契。
泥。梨。の。苦。患。と。た。と。り。中。天。上。宿。経。の。峰。土。(邊)り
よ。と。や。然。淨。大。上。ふ。八。安。養。新。足。中。ハ。加。羅。陀。山。補
陀。落。山。下。ハ。福。舍。人。天。の。古。魂。なり。と。一。そ。の。名。よ。古
秋。末。代。の。愚。癡。妄。慙。の。通。俗。函。奉。の。生。處。惡。愁。の。ん

ご。彼の心わらへばこそ功と入き。かずとく
さざうん。地蔵の事。既無か俱よたのり。このもの
ゆり。建仁寺の。お教使の。既無に。地蔵の決意。一
度の秘書あり。其中の肝心。地蔵は大日。柔軟の方使
の至極。不動の剛強。方使の。既無となり。只折伏極度
の。既無也。せ乃の文武の政務の。四海を治もうがて。
強軟の方使。勇機と捨。一持す。ば王て活化之惠く
の。傍教の妹。安養の尼。施入の時。修善院の傍山勝
算。穴罵の咒と福。ト。便都。地蔵の寔号と云ふ
て。こう御人や。いはる。不動歎美の前で。と。うら
地蔵年と。い。而も。也。活ふし。蘇生
心の傍教の。諸仕の。身みが死と。ねに。うり。ゆく極
き神も。不動の。既教咒と福。セ。う。便教地蔵の
寔号と。う。蘇生。ト。ヤ。う。ハ。男女六眾
人與。ト。ひきうち。と。も。き。傍の。しひ。ひ。また。代
り。う。と。ひきうち。ゆ。と。げ。便。地蔵。ト。を行ひ。した
是。非。も。ひ。う。と。う。と。ひ。う。と。の。ゆ
宿。よ。び。ん。づ。ゆ。ひ。う。童。み。二。人。自。校。と。お。う。が。
男。大。と。既。と。あ。と。ひ。う。と。え。と。も。と。行。ひ。う。と
名。行。ひ。う。と。え。と。り。見。と。そ。げ。に。や。う。う。と。地蔵
ひ。う。う。ひ。う。と。あ。と。う。と。け。キ。と。の

行ひの足跡ありひづかづか。地蔵不動の方便そ耶
きて。ひとて生死づく。まよひもく。地蔵も
六趣に生の苦とたとのゆ。諸法はうの利生よ
とれり。不動ハ三障四魔のさうりとのそもこね
ぬ事。又諸の身とくればう。六趣と出と四魔と
きく。誰の解脱の門よ。終く思ひそぐ。

永仁三年十一月二十一日。沙門文字謬あり。かく書

入度事作まくに満七十の老眼と拭て。あまがまう
ら。かく裏書き仕り以畢。かく愚老草々不意
草案れまくふ。洛陽被窓。園庭みづく。その
憚角。只愚俗の一念は傷心とぞ。んならず。

沙門

興住

地蔵菩薩隆祚と利益のす

鎧倉の浪よ。ちまき地蔵堂を。丈六の地蔵と安置を。
其邊の傍人。はのよままでりり。或時日來まよぞつ
る人を。而くみまことに。たゞく。わざと傍にみちむけ
ら。め。日未つ。お見事。つよ。人ふうもきて
かく。もまう。そと。不様く。縁まつあま
のゆふとみ。あらそとよ。経へ。じ堂の。よ。ま
くまくに。先祖の堂と。賣間。東大寺。不動進の
移行房の左。人はと買て。二階堂の。をみう。づ
う。く。ふ。像と。も。人支不足りて

思ひ立つてか。づくらりとなく。下半天はゆる。
勢あるをもへずありて。人人が振舞は仕ふべし。
りもあす。十人計不足なり。ばほ仰ひしくも
おも。やとくそをよこつて。食せませんともあ
はとよきさうにやうふらむ。権化のあまきよく人
やーじ。同様の便。うにみそかうりゆう。まゐ
ぬ。まゐの貪相もがつまへど。よへ仙師とよび
て。かとまーうんとぞうに。灵像とて。めり。や
もくやがりかげとひなれ。みの仙師とよぐ今
もうちれ。件の仙師あく。多めわき便あうで。
只根力としなど。うなぎ。うなぎ。うなぎ。
まくへはまく。まく。まく。其後檀那寺事
儀科をもて寧進へり。仙の相も。人の相もたがい
とぞき。當代の不思議。彼上人の才みの詫也。
世間又えられ。そして。あ夏ふれ。すう漏る。経と
つて。わゆとくもひて。遊て。うその人よもくわ
まく。うのひわくもく。人。仙像とあよ
里え修補をあま。大縁の中。うきぬ。ぬ。た
うか。やづら。罪なくして。縁とうとう。くほ
まうき。樂たうひく。まく。まく。縁を細達へ。血を
ゆうて。阿鼻獄。めどり。晝夜。血をゆうて。心
利天す。血と出と車。角。うれ。報を得ゆる

はよそ善惡心のわざりし事より。作業を室
里都。或事もよむべく。遺傳力もくと
し。但一たやもくの事づくべ。笠置の説勸へ。え
どりまで後。灵験あり。ヨミモビとづら。右もさぬ像
は。たゞ其まゝとてあがしうれやう也。何。かくも
かく。さうとてば。律の中より懲とぞりと
なり。みやうるを悟るうへど。くもとくもと
心あくと様よ。佛も是いゆくとぞて。行者を佐
をとく。はくじつま也。

一 直きよ。勘解由の書語。門生阿難が地蔵が
居る。家中の男女をも。さうしてまたひもくち
の事。すこしけ。の事。年老病。うつ病。母女居
ども。かく。かく。せうちづくんと思ひり。あまう。固
くかずきの示現の事。うづく。うづく。うと。思ひうづく。
思ひや居うひの事。うづく。うづく。うと。思ひうづく。
耳よりの時。うづく。うと。あひ。りんとたのうとひ
く。うちのうそふき。やうく。うそふき。あう。うのうそ
をねうと。うそふき。あう。うのうそふき。あう。うのうそ
うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。
うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。うひ。

とくに。その小路とあくまでもよしむへ。そぞ
めぐりくまえむか。ばせ處もよぐらこましむか。が
ときうとうとうとうとせのよきみ。暁月夜のすまえ。
道の馬車のうへ。僕の者。四人ぐるぐりてりありひよ
う。立すまて。わいそんとまくぬきとまくべ道
り。りうり行ひ。あらうさまのね。よしが右
かくもうちてど。やうくまくくのじふひとう
ていせり。やよつてくらむれとよ。びての小
路の地がよ。ば日本まで。年事のゆりううざ
あくまきよ。内。よしわいぢりへんたのめ。を
示現とくわく侍と。よつてくらむれと
だきよし。よしよ。うれとくらむれと
りうううあくまきよ。入道。書かとされて二年よ
なううううげ地蔵もあく。私のでとくひうの
ゑく。坐と。じとづんく。事もせうううり。せうう
だく。あうたまと。この事もせう。うゆうもか
よじ。やうて。おうらのやくゆり。田舎も不領
な人ともうあ。うづね武も入道。ゆりよまそ
ばは師。たてこゆよ。つまはくここゆよ。うづ
れ。うづくとくらむ。あせはあ。づくとくらむ。そ
う。あまのとくらむ。うづくとくらむ。おほむれ

つまといひを被る。心の内をきくにまことに。のあ
の門を行き。地蔵の出現トヅルとある。ほ跡ハジカぶせん
とねじぬくとくらう。何事そ。地蔵
くわづかさう。うりあう人か。心とよろち
とよ。愁心ゆくとて。私の心とよろち
は女房メイヂ。思ひよくの心。不つりして。大聖のす
役ヨリ。うそくとくらう。れ。鞍馬アシマの老僧ロクソウ。示
現の故ハナシ。たうひよ。房カブも皆ミツやづと作ハサフる。
思ひ合ハシメル。うの地蔵アシガ。ハジカ

一 疎河ハラカの酒。富吉河タチカワのかく。殺生サムライと業ヨシと也
男ヒト。入れもうちにもうて。小地蔵コハシガと一體イチヒ。尼ニ。

小さくもくとくとさうとし。地蔵ハシガひらひらに鬼
乞ハシガ。殺生サムライ業ヨシによるもて。地獄ジエツめつき者ヒトヤには
地蔵ハシガ。毛ヒゲと髪カミとくじ。ごうりと行ハシメル。まげ
てゆくとく異ハラカりゆうゆうとく。一月イチ月ツキ
へ。殺生サムライとくらう。又ハサフのとくがり。つま
つま。身カラと地ジへ。今。安ハシガ。牛頭馬頭ウトウマトウが
て起立ハサフて行ハシメル。又ハサフ地蔵ハシガとくらう。そに約
束ハシメル。たゞくらう。かひまつハサフとよどく。やうく
かわくまく。じく度ハサフをもほと。びくたむの。も
今より以後ハサフたゞくらうと。修ハサフまく。ひねく

経の口角の跡す。今ハアのと。殺生としてまう
して蘿つもね。其後一年づくづくもううううう。又やう
もうもううううに。がりうる病よ責体せきたい。まく恩徳を
まく恩徳をあやう。あづりく坐立でゆくよ。今度は徳
益もみくらびだ。あくあく。ひく効果たうう。地蔵
ゆもゆもゆく。被まうねと思ひ。一心よ念。一月
に。がううの影のくくう。さくばうめうめう。四夜
のもとくゆをつう。月とくわんとく。地蔵。行もあら
てふうふう。獄卒ごくしゆ。かくに。か悪人かくじんと。なうこくの
ゆもくゆゆゆ。たびく。詔云しめこと。ては者。とくよ。
我がは。あど。まど。まうりつりうかう。と。行く。ま
人の獄卒ごくしゆ。天とくりて。せなううううううううう
えく。獄卒ごくしゆ。とく。蘇生そせい。て後。曾いまだ
ど有あく。うく。なり。遙とおよなるやう。て後。曾いまだ
時。後。世。善提ぜんていの法。と。法。と。後。善提ぜんてい。地蔵。と。恭敬供
養くぎょうくぎょう。と。う。弘安年中こうあんねんちゆう。の事こと。

一 和州わしゅうの生狗いぬ。論獄房りんごくぼう。と。云。僅きん有あう。統治とうぢ。也。時。制せい。う。と。因いんひ。と。持じ齋じさいに
有あ。小。圓。辨べん。と。時。制せい。う。と。因いんひ。と。持じ齋じさいに
有あ。後。禪波房ぜんぱうぼう。と。云。才。有あ。庵あん室しつ。と。而。て。隱
居いんきょ。法。花。證しめ。う。と。後。世。辨べん。と。恩。あ。そ。う。り。他。界
の。後。禪波房ぜんぱうぼう。と。云。才。有あ。庵あん室しつ。と。而。て。隱

才よ。さとわざふ事す者く憲。一日一取有
てよりうり繕うてうちへ。裏魔王宮へあく。報命
くへりて被つて。報命はまうつてども。うりをそ
うる。何方へ下た。東西もまことども。玄関よ。師匠
錦識房。法花經一巻。キヤウテ。おま。あきこが
ゆく向よ。かひひまよ。てほゆつまれり。うも。何事けり
が。うも。方角。うそ。じとつよ。のり。房。法師
もと。うかよ。そ。具。し。ゆく。や。庵室よ。般若の
像。う。あり。文机よ。法花經一部。至。う。我何を
き。樂よ。住。で。召人。申。牒。も。ろ。伝。承。の。な。ひ。れ
ぞ。法。と。説。て。人。ト。聞。き。也。ア。法。力。深。と。じ。い。ざ
が。う。タ。田。ほ。う。と。と。も。修。み。の。体。よ。あ。び。
と。過。す。り。と。て。の。ま。う。教。と。く。の。召。人。ハ。む。り。く。う
べ。ま。う。別。の。苦。患。ハ。か。と。云。そ。て。ば。力。ハ。い。ん。御
づ。ま。う。や。と。つ。ひ。思。つ。く。約。て。地。菩。薩。の。薩。の。れ。り
ま。う。ん。も。う。も。歎。ア。て。及。す。と。云。普。有。く。錫。杖。の
あ。り。て。地。菩。薩。の。薩。の。れ。り。あ。り。と。云。報。命。つ。ま。だ。そ。う。う。て
ま。う。内。ま。う。と。と。報。命。つ。ま。だ。そ。う。う。て
う。く。炎。魔。王。の。は。ま。く。具。し。か。う。一。ま。く。誠。よ。け
は。仰。ひ。お。ゆ。う。ま。く。も。う。や。と。仰。く。れ。そ。ま。う。ひ。ゆ
し。行。う。と。ア。合。れ。ば。ま。う。そ。ま。う。そ。聖。中。と。ま。

くと具であつたまゝ。壁の中より鐵鬼ががきとよ、
うひとよ般はんもあらへ有り、其うち終おま
りあつたがつひ。其中うちあるがさやうつぱの瀕ゑ
波房はなわの村むらなり。あと御ごあすそ。御ごは報ほう
はうて。ば報ほうとひく。飢渴うきかつせりて術じゆ
作さく。あれ活はづく食くみんとアタハがひく事ことや。
是は海うみだ。又またたゞる別べつの者しやくと活はづくに
恒つねふれよそ行ゆ。又また又またと向むかふ
りた。そろあすそ。うとうと活はづく別べつの者しやくや。
つきくとそ。やぞ具ぐであつひ。わづくと
アタハ。用もち活はづく。遇あつ小行こいく。がにふ。
はうめなう。はと御ごひき。故ゆゑの報ほうとゆく
ちうまきをぬと食く。うとうと。其そのうとてた
もううあすそ。今いまうま。又また人間ひとよ生うして。
思おもひよなう。で。余あまとあくへゆと不經ふきされ
え。我宣わたくすと。はとたとひつ。完賢かんけんと。母めの
老お養よう経きくと。彼かれ苦患くげんと助すくひ。とのれ。怪あやせびひのあ
生う。勤つくと。うそ。我わの隣となりに。有あれ。りぞ。もと。う
ひ。多くんと。ほんと。歩あるて。開ひらつり。もと。がうつと。のと
蘿はねと。縉りきは。仰あおたよ。後あと世よの心こころを。全ぜんひのり
一いつ或も遁と世よの便びん。ふよ後あと世よの心こころを。全ぜんひのり
者ものたるあり。内うち料りょうのうち。耕う作さくさんと。やまと。う。

あらわす。かく。此のつく思ひ立つて取のるよ。者山
乃邊カニより火車あり。是と師匠にかく。獄卒先とやは
火燐をひた。一。火をねそうやうと云計なり。
獄卒と云ふ。是はくともれ有とせじてこなりといふ。
何ぞ起る。もとよづんがそれへとまど。其のの
奉よ。着を傍三人からて云く。獄卒がつひゆす
牢房へとつるとの事よ。事と作はと云ふ。あれ
と耕作して。がりくのじとこうと者の。ごくとや
しとひよ

松葉の氣い事とて。うなぎを耕作。穀の四人を
ひきこむ。御一筋とて。夏のさむひ。耕作
ゆうふ。ぢどりの内勞役もやがて。一のなくすれ
えり。ゆゑ

銭倉よ。或生古二人知若なり。りうが。財産を

伝へ。傳にあらの供養ドリ。一人は世間貪
ひぬ。ゆくも地主の相ねもとくのとくねど。それ
香奉て。わざめぐら。一人の世間のこすなる。もく。お
く。造立。厨ひ。うんと。羨麗。たてて。か
の供養。うる。びんをばら。くせと。とよ。一
もとと。傳りうる。うる。今れども。とけ

供養してまことにゆき地蔵とぞひつてうち
とくとて。供養をせうりなり。或時夏中。け地蔵。わ
うへてうへてうへて

せどもよ心い事も有れどその事はすむかへ
かくうちたるめ縁をも。むくらむくまも。一つ厨
みを安置す。固く供養とのべうとう
一常外鏡障のすと。老へ遙り。まづ地
あとよりりり刻て。あめ供養。うり。家中
の男女。うろぼの事ばせおもアラム。是方の利
益焉。くよじか。うるはん有り。其ありを
母はうれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
益乃。祇。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
なく歎うれ。の憂樂。地蔵。井の底。うれ。うれ。
あとうし。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
たもうれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
印。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
印。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
印。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。うれ。
無身の一。御。うれ。行者の信心。智惠の。うれ。うれ。
有石の。うれ。うれ。行者。本石。うれ。本石。うれ。
私の想い。うれ。私。利益。うれ。恭敬。心。信仰

の思ひも。餘小ゆく。まもやし。無れど。せきがれ。利益
益もわざ。たゞ。ぐじ。あらう心より。恵暢の振
舞なま。利益の用あつれど。人といふやま
う。神へは前より。うづび。恐ともせず。よぶゆ
ま。いそ。徳。まのうづび。利益もとあつら
か。をくとも。うるうる人の習也。

沙る集卷第三 上段

為石集卷第三 下

目録

不動利益の事

孫勸行考し事

善薩れ事。うつもく者。うつめ事
佛の法縁じゆかく事

游る集卷第二下

も勤め益のり

仕列のう。中よ。まき上人有あり。三巻の修
めえ。黒修し。才門徒が。うなり。年た
りく後。病ゆゆて。あらわしくみえ。魔障
と見て。もれ性もたゞ。心も御も
うべ。月のゆき。半身みどり。臨終正念。よもよ
て。意杖。児と通して。一心よ。行念。一念。もゆ
り人の一人。あもう。が。とて。至誠。ひとぞ。と
頬。もうくらう。とたそ。とつ。片とが
。霧宿。みそそぎ。餘の傍。ひよ。とて。ほひそ

是とからむ程に。一時うるさきをやめて後。大息つきで
相もいそひ。いそひと人たゞへぬ事とて。
アラハ上人の佛道たゞまんとて。りぬ
くの魔界の殺をもとと。目にかゝつまひ。全人
とたものまんとゆひて。別處ともとく。窮
獵強慾ゆ。死とこそ侍りつゝ。信心骨よ
つてまくつて。不動の歛とすうて。も
詠よとえきて。心地もうちらわて。ゆふや云
よ人よ眼の性をどう。らうもゆくうて。臨終
の用意もやあて。これ行人の事とほれ
し。年中出で。佛舍利じゆのやうり
ば行人の事とて。づんあう。如は日出るもまく
うる程。年東の檀那の入道も。まうて。
けり。此の事。諸の魔界。上人れはまの様とさ
ぬたゞんととひて。不動の主とひひひ行て。
内院詔りてまくおり。まひとみく作となんげ
事。方角よとひそ。が。ひのたて。わもしよ。ひひの
じと。門徒衆の中まくらしひあつ。達。よ。南院の
在。生。三障。ありまく。不動と会ひ。とく。書授
心。行業もあく。まく。まく。書授

よ。道うすけよと。魔盛くとつう。古徳の口傳ふ
く。不動と地蔵はらうともとて。生死死と生
まうなりとつう。地蔵。天日れ慈悲のきゆす。
不動。天日。智惠の極うなり。世間の萬物。法
陽の和合やうりて。生長とうがごく。お葉のやふ。
照音は方便よりく成れどべ。神鬼もと
り。名もとむぞれへゑ。魔界の障界もとひ。
修業の心と行ふべし。仏事の薩の利益。行者
はもわぬ時。感應あつて。鐘の形よもぎよて
じよとひ。音もとづて。むまとね
もぐて。金石の心なまき人のたぐくにひづり。
れきと。アハ神の。うひあう相の。候もとく。
とて。何ぞ能とかどく。うん。感應の。うくま
事。ハ候心の。あらそひうなせ。世の人。主君の。事
うじつよ。ふう。と有く。身命と。うま
狼の志あつ。もとあもくもむか。金糞の庭う
余と。うう。御うじ。其無ハうよ。一朝も
身命とたとく。高木の。草木。根の。因縁と。ま
たとひまみひととげく。寔達の。伴侣と。ま
ど。或ハ多の。思ひもまよ。又あれど。つぶく
の事。うよ。またもの。ちきう。思ひ。経うよ。身役か
う。うよ。うよ。うよ。うよ。我得有く。うよ。

是よりもよき。身もつまむ。心もすこぶる
徳事す。あらうらしくりうすもひう。がれ
えうれまのたうへ。行力ともううなうひき。は
やれの利益。たゞと生一世のよろくじ。づの
事必断。くことを始の輪廻とぞ。ふる常
経のゆ通よえ。ふるくども。されう力命と
まんねはの利益。たゞと今生れあとゆ。す
れ二世の利益者。經の中。喰とゆ。せう。佛の
れゆ。て。なり。不の苦根。たゞひ世方のたり。す
恩^{おん}。づぬ。解脫の因。となり。またとへ。長者。ま。田
乃種^{たね}みを。めぐらとひ。時。かきくのほくろひて
後^ご山精^{せい}。安^{やす}むれと。かく。び。其^{その}集^{しゆ}と。古
ケ^ケと。うり。又真言の功徳と。一。行^{ぎょう}禪^{ぜん}師^し。教^{けう}
説^{せつ}く。行者。たゞひ有相の患地と。除^{じる}。世間の福
徳^{とく}のために行^ゆむ。三。密^{みつ}熏習^{くんしゆ}。して。近^{ちか}い。佛
果^ごと取^とく。世間の水^{みず}。ば大海^{うみ}よへ。れ
大海^{うみ}の水^{みず}。總體^{ぜいたい}たうて。一切の善^{よし}。ふは。性^{じゆ}よ
帰^きと。法性^{ほうじゆ}ハ是^{これ}總^{ぜん}善^{ぜん}れ也。所^{ところ}を。有^う相^{あう}
行^{こう}者^{しゃ}菩^ぼ提^{だい}。向^{むか}う。財^{ざい}ハ利益^{りえき}。う。づの利益^{りえき}を
じゆう^{じゆう}ねた。あ時の得益^{りえき}ハ。行^{こう}者^{しゃ}心^{こころ}に。う
る。ば道理^{ぢぢ}と。う。ま。寔^{じつ}の智^ち惠^えを。う。ひ。勇^{ゆう}

猛精進と云ひて。大法の重擔と云ふ。三身の
妙果との事。

修勸紹角の事

此は既へ傳の事と云ふ。唯心房の上人。^{おほし}貴
士言師也。さひつゝも。保喜院の尼が
とけみて。修勸の紹者とて。内院の上生と號ひ。
如法能行の上人^{うりうり}。道場の中^{なか}。殺率の
内院^{うちいん}。有相の瑜^ゆ。伽^カ藍^{ラン}の紹者おうしゃとて。
中比^{ちひ}孫^そ。有相^{うりょう}。志^し。悲^ひ。
ども又行^{ゆき}。下^{くだ}小院^{こいん}。有相^{うりょう}。慈^じ悲^ひ。
修後^{しゅこう}も。やくも。りりせど。直^{ただ}世の上人じょうじん。

授^{じゆ}。國東^{くにとう}。或^も傳^{つた}。言^{こと}ひ。今^{いま}。も白^{しら}り。す
て。國東^{くにとう}。下^{くだ}。行^{ゆき}。上^あ院^{いん}。と傳^{つた}。後^{あと}。と。云^いふ。
ト^とれ。必^し。ど。よ^うて。か。ひ。後^{あと}。ま代^{しろ}。を。之^を。
ち。ぐ。う。の。功^{こう}能^{のう}。む。ち。う。な。う。事^{こと}。年^{とし}。ある。う。こ
被^は。爲^め。よ。か。大^{だい}。玄^{げん}。功^{こう}能^{のう}。も。あ。し。ん。そ。く。古^い
と。き。出^で。も。印^{いん}。と。じ。と。ひ。う。う。古^い。の。木^き
本^{もと}耳^{みみ}露^{あらわ}。も。か。く。や。と。え。ゆ。そ。と。又。印^{いん}。と。じ。と。び
て。う。う。脚^{あし}。う。身^み。う。肉^{にく}。其^{その}あ。づ。ひ。も。あ。又。鈴^鈴。節^{せつ}
と。じ。と。び。て。あ。つ。も。如。法。五。ま。ま。鈴。の。音。一。り。
ま。ま。ハ。心。房。也。ま。ま。云。れ。伝。と。伝。と。モ。せ。ん。あ。が。る。也。
ま。ま。く。枝。爲。一。終。よ。な。と。い。れ。り。一。或。經。

禮り。文承の末のひよや。胎藏の行はく。後
鈴もやうもて。禮盤の上へもて入滅とく
やうる。殊勸の淨土寺もぐんと。肉院の往生
えきしゆくと。才すもあされり。殊勸と
胎藏の大日とたゞす。あを。乃はも胎藏也。
肉院の往生とさげく。うれ社大師よ。值遇せく
うん。うん。山。くく。そも。え被殊勸慈るハ。補救の
がく。當また尊師。上生經の意。都。率。代。上
生。ハ。生。因。も。み。く。や。も。一念希求のくす。一称
あ無の功。その素懐とくとくとくとく。又三吉の
姫。れ得報の因も。うづに一搏の食と。荒生す
かく。う。因。孤。お。花。去。み。て。く。と。と。と。と。と。と。
て。得。脱。も。下。と。云。天。生。の。因。底。な。く。上。生。と
え戒。と。たり。し。袈。裟。と。く。か。り。と。の。人。ハ。初。未。に
度。と。う。と。云。天。生。の。因。底。な。く。上。生。と
れ。因。男。す。と。因。孤。有。報。立。よ。う。び。と
れま。り。孤。じ。よ。う。と。う。豈。我。心。た。い。く。ぎ。れ。ば。生。因
ス。や。と。安。養。都。率。れ。勝。劣。の。時。安。養。を。不
通。へ。都。率。ハ。肉。院。外。院。の。不。同。有。と。外。院。を
近。位。也。と。う。御。も。慈。母。教。化。も。う。ろ。三
五。会。れ。ひ。う。よ。ま。う。く。ハ。不。足。な。り。ハ。り。ん。や
肉。院。ハ。四。十。の。院。の。中。半。量。壽。院。あ。つ。う。前

極ふと。一ノアノ。一ノ弘の淨立。身生ト。ぬきば。
徳公の因。ト。そ。ア。モ。ベ。モ。是。非。偏。執。し。
た。シ。少。ア。ハ。ベ。ク。ハ。ト。ツ。ア。極。ふ。れ。往。生。も。
ア。ハ。ま。提。心。ト。モ。テ。サ。レ。ア。ト。カ。ム。ア。津。
五。福。の。文。ア。モ。ビ。業。提。心。ト。モ。テ。サ。レ。ア。ム。
墨。雲。毫。の。道。因。く。其。意。也。彼。立。の。快。系。ト。笑。て。
受。系。の。あ。下。度。生。の。心。ア。ハ。半。ビ。ア。ビ。
ト。ナ。ア。御。リ。上。生。の。因。ハ。善。花。心。の。文。ナ。ア。希。
求。の。ム。ア。ト。ナ。ア。ビ。モ。ト。モ。モ。モ。津。業。ア。ハ。
密。嚴。威。嚴。ハ。普。ハ。ト。モ。甚。花。ハ。體。ナ。リ。ト。イ。
テ。モ。權。寶。體。用。の。義。ア。ナ。リ。ナ。ホ。ア。ビ。ア。ズ。
勸。ハ。胎。產。の。大。日。猛。施。ハ。金。剛。の。大。日。ト。ア。モ。本。
ア。モ。ア。部。の。大。日。寔。ト。ナ。智。不。二。の。故。ト。平。等。
一。仰。也。又。三。十七。寺。の。中。モ。西。方。れ。毎。量。事。も。も。四。
親。近。れ。菩。薩。の。中。モ。法。利。因。語。ハ。濟。て。の。ア。ク。
詔。名。文。殊。殊。勸。淨。名。也。ア。シ。ム。だ。モ。ト。仰。來。
周。果。れ。名。別。ニ。勝。劣。ア。ア。ヒ。ト。ナ。ト。密。教。
の。習。ハ。周。ト。實。ア。ト。果。ト。權。ト。ひ。因。位。の。殊。勸。
果。歸。の。淨。地。モ。ト。ナ。ハ。ベ。ク。ハ。ト。ツ。ア。は。綠。
の。意。ハ。殊。勸。ハ。在。家。の。俗。形。ト。ア。モ。あ。ビ。

本有不改の故也。うべにも欲界れかに浮
去とめ活つば。自證の極致れ。づくは眾
生もわくとつゆめな。自性清淨本不
生障也。取捨の心も。道俗の心も。たゞ
世俗の因縁よりして。内類の死生と利害を
う舉例ハ俗事よりして。出家のうちやがり。
繖五とひて。淳妙の世をため。愚癡の凡俗と
以導もう。權跡のとくせ。中トテ接ひ。聲の
かきこむるも。厭離の心とたうて。浮きたまし。
華経とうごきよりとあり。螺髮ハ無心の
山より。伯夷叔齊蕨よりて。首陽山を死せ
由耳とあへ。栗またとひきよどと聖人
國よつへ。考みまづり。まことと。阿ヒと
て涅槃くらまづ。活よまぬざ。先よ少て。ほ
泡ハ聖人のじく繖五とひて。もくハ聖人の
とく欲界よまると。ちく粟の肉縫ハ肉と云ひ。固
ゆく。果ハわく。聖人のわく。聖人のゆく
う。繖五とひて。もく。天よれ
一物のみと母をす。その薩の地と云ひ。其
體と稱ども。ま如平生の故よ。四生れ群れ

綿上山ハ
昔ノ今權
力故事也

もうまれて、えあく。其國のりん。恒順。麻生。故。
故。六説の舍識。モアリ。ノム。モアシ。故。因位
代菩薩の利生。景德の体化。微。小毫。非。も。う
も。う。也。云。下。是。往。の義門。也。微。小毫。非。も。う
事。も。う。也。大塔。ハ。不。ニ。也。體。も。う。改。不
ハ。里。百。八。町。也。跡。跡。御。坐。ハ。胎。藏。ハ。大。日。よ。下
也。の。胎。藏。ハ。百。八。千。号。の。經。も。町。平。教。院。ア。も
ア。タ。ク。ア。大。院。一。里。ハ。金。剛。界。ハ。三。七。多。の。經。も。と。
大。所。の。ハ。平。地。金。剛。界。ハ。大。日。モ。ナ。リ。ハ。金
剛。薩。埵。モ。も。が。ア。ハ。金。剛。界。ハ。大。日。モ。ナ。リ。ハ。金
も。う。強。泡。ハ。一。體。也。金。剛。界。ハ。大。日。モ。ナ。リ。ハ。金
剛。薩。埵。モ。も。が。ア。ハ。金。剛。界。ハ。大。日。モ。ナ。リ。ハ。金
の。不。圓。ア。ハ。金。剛。界。ハ。一。體。也。金。剛。界。ハ。大。日。モ。ナ。リ。ハ。金
も。う。果。ハ。弘。ハ。權。ト。云。事。モ。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
實。義。成。仙。の。外。跡。の。一。義。モ。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
勸。急。モ。の。懷。用。ア。ト。モ。ト。モ。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
代。モ。ハ。言。の。利。益。有。ア。モ。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
ト。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。先。種。ア。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
也。彼。モ。云。三。世。ハ。終。仙。の。は。乘。益。ア。ト。ア。モ。ア。ハ。ハ。
素。素。モ。笑。人。慈。禪。定。モ。ア。レ。シ。接。モ。ア。二。十。毗。奈。耶。
慧。慧。俗。モ。この。じ。後。凡。ア。モ。說。く。三。對。法。教。智。
相。の。ほ。門。の。し。核。モ。カ。ア。ジ。ヌ。モ。泡。羅。尼。藏。

三教の義教。初の三は小業の三業也。次四は大業。才
人の密教也。三事よりもつて。祕たる業の機すゝ
もして障りく。根鈍なる。泡羅尼業と號く。
此より事のことを涅槃と云ふ。ノリヤウの事。
此五藏と乳と酪と生蘇と麁麁と醍醐とに喻す。
前四事は輕病と治し。醍醐は妙業へ重病と治す
れ。がく。於教の法せう様と。密教とどもを含
み。之れを少業の三業。法れ時うちめ。と。人
なり得道と下品の業のう。重病と治らう。と
一。顯の大業。像は此時うちや。中品の業を
病と治らう。未だよへて。泡羅尼業の行
益うちや。上品の業の重病と治らう。と。其の言
經の中や。または。つゝ。り。目が見えない。國王
大臣。灌頂。一。終。其の言と如。然。凡下の者も。
かく。まことに。やう思ひ。ゆ。せう。體の中。よ。は
貴賤と福せん。ゆ。一。自尊。よ。威力。く。一。て。
凡下の者。ふ。称。心。が。こ。身。と。よ。ち。云。教。を
肉。毛。の。ほ。う。て。上。窮。一。き。ゆ。ふ。よ。の。つ。か。か
う。されど。惠果大师の。心。を。う。の。中。身。を。う
國王は。の。中。小。貴。の。密。教。と。云。性靈集。の。中。に
あ。う。り。ゆ。う。よ。じ。義。と。う。さ。う。世。間。の。人。が
玄。教。と。と。上。代。の。利。根。の。人。法。津。の。使。の。學。」

行とて。在ありの男女をもあへ。妻せひ根核ルツクア
あ應せどと思ひて。うてわざと見とくに。也。
寢冥園のゆへや。まことに津立門は人の死るのゆ
りん。余は數年母利益リヨウアヒトシモヤナリ。は
經文よ違せり。大言説の中。まへよまほの利
益とく。善事多吉女ばはと假行カジハシアヒトスル。有
たしじははの仰アシハシアモギ。比丘僧ビクニンアモテ、自行
れ要はと作アツアム。在あれ出あれと繕カミセヘ。ま
有縁の本タマアム。寺チヤウト事。人ヒトトシム。か
な。日本ニホンの津立門の祖師クワセイアリ。是土シタ人ヒト。ば源文
と曰く。今後の末代モダ利益リヨウアヒトスル事。ある。ある。教の
と秋アキと選擇集セレクトの中。アタマアタマアリ。是蓮が孫
少シ。つづふ。未ミ字シテ。ま云アマガシ。利益。源文。名的。な
き。少シ。つづふ。未ミ字シテ。ま云アマガシ。利益。源文。名的。な
上小富財シラカミタツメイの次タマツ。弘法大师カクハシタシア唐カタマリ。て
密教ミツキョウと。も。御子カミコト。惠果大师エイコトタシア。下シタマ。ち
となり。真言修行マニツキヨウジウ。お薦アシハシの地シタマ。下シタマ。ち
ひ跡カミシタマ。五百ゴハシ。東寺トウジ。小シタマ。三鉢サンボウ。も。登
山サン。獨古ハシタマ。主シタマ。因カモリ。も。そ。よ。四百余シヨウヨウ
三密修行サンミツキョウの美地アメシタマ。て。せ。う。帰カミ。も。有アリ。也。
有縁の亡魂アマガシの遺骨カツカツ。彼山カミ。か。し。事。更ミタマ
い。ば。衣表カミタマと稱アヒトスル。年シタマ。も。も。も。も。も。り。也。

此とはの奥底。也の堅裏。先人の立意を知る。也。天代よりし故也。うれとてふゆ。密教の末代より益もすと伝と下。故よ醜陋の行持の柔軟房の上人。淳古宗の通とゆき。モズの菩提と云ふ。何の法もくろむと勅宣のトトウタリ。實薩陀羅尼光明言ひも。もととととととと奏。」オ本意ナシ。ナ思ひく。淳古の仰へ念佛と廣大善根なり。無上の功德也。何事か無不^レは不思わざ。他家の利益とかりく。またの佛はとうまにせり。あ。即へて下りてありひりとぞ。誠ト念佛よ

夜間と異足。セガラ。怎^レトモ。うづく取引とく
テ道隆も。とて善根の徳あれど。其道程^{トモ}うづ
りゆ。何の法より其益をうんなし。十惡^{トモ}五逆者
者往生^{トモ}りゆ。若知法よりて。我十念と云ひ
てこそ。未至^{トモ}よあたり。極系に生じう事なれ。莫
篋^{トモ}下泥羅羅尼ハ。十惡五逆の罪人。惡通よもざら
てまぬ^{トモ}。期^{トモ}はれ。其子孫ありう。ば神鬼と
云ふ。七五滿て。み七死^{トモ}に向まれば。うちま他^{トモ}
多^{トモ}洋銅鑿鐵^{トモ}。ハ功德の池となり。是^{トモ}
けま^{トモ}で。是^{トモ}が。莫益^{トモ}。そくまゆく。
えもゆくと。庵^{トモ}。して。復更のつうに後承^{トモ}

生^リて。一切種智と^共。佐^シ神^{スル}。處^{アリ}。ソ^シト
モ^シ。老^シて^{シテ}死^ム。又^{シテ}、儀軌の説^ム。地獄^モソ^シテ苦^ム
患^ム。志^ツじ元^ス。說^ム。真言一^函三^回。向^ム。
毎^日量^ム壽^ス。如^来。このも^ニ。說^ム。手^とも^グ。後^ニ。余^タ
ヘ^リ。遺^ス。大^き。統^ス。ソ^シんや十二^函。過^ス。漏^セ。人^功
德^ス。も^う。く^べ。徳^モ。う^り。又^{シテ}。七^統。墓^所。も^う。
ま^い。と^二十九^函。過^ス。而^ハ。量^ム。壽^ス。如^來。
け^レ。靈^ス。と^ハ。荷^ム。負^ム。そ^レ。ゆ^く。せ^く。へ^リ。余^ス。一^函。
と^シ。と^シ。又^{シテ}。經^ス。中^心。少^シ。漏^セ。尾^ス。と^漏。て^ス。去^ス。沙^ス。と^カ
持^ム。も^う。事^ス。百^八函^ス。と^て。ば^ハ。沙^ス。と^カ。墓^ス。ち^カ。元^ス。骸^ス
あ^リ。と^カ。ば^ハ。五^函。沙^ス。と^カ。と^カ。から^テ。是^レ。述^ム。も^う。

松^木系^ス。よ^シ。う^ら。緑^ス。れ^る。余^タ。念^ス。す^レ。正^ス。羅^ハ。丈^ス
證^ス。ま^さ。見^ス。ま^さ。ひ。仰^ス。道^理。あ^レ。文^證。あ^レ。
此^レ事^ス。一^函。一^函。佛^ハ。思^ハ。偏^ハ。顛^ハ。又^{シテ}。事^ス。
事^ス。も^う。自^他家^ト。と^て。う^づ。に^向。へ。念^ス。中^心
事^ス。も^う。分明^ス。文^證。あ^レ。は^レ。そ^レ。考^ス。と^シ。義^ス。う^ら。行^ス。だ^ラ。
と^シ。と^シ。と^シ。と^シ。義^ス。行^ス。だ^ラ。ゆ^く。と^シ。智^者。こ^そ。
し^ム。食^ス。く^べ。修^ム。熟^ム。意^ム。毫^ミ。毫^ミ。房^ス。上^ス。人の御^ス。
太^綱。と^て。づ^ス。そ^レ。母^ハ。文^を。下^ス。く^く。没^ス。く^く。没^ス。
か^レ。は^レ。く^く。と^シ。一^函。一^函。ハ^レ。考^ス。と^シ。義^ス。う^ら。行^ス。
経^ス。つ^シ。よ^シ。文^を。注^ス。と^シ。通^ス。俗^の。伝^ス。と^シ。よ^シ。
ま^ん事^ス。も^う。あ^レ。一^函。經^ス。と^シ。或^ハ。略^ス。一^函。或^ハ。廣^ス。

ナヘテ人よがどく。まへ寔ては施うと。仏教院
船金言とあくなつべ。若導和尚乃般
舟讚の序の意よき。彼經の文。重障銭根
の有れ餘教也。もれうと。施羅尼院とりて先と
利と。餘の業れ治せまう。重障と。醍醐のゆ業先と
治もうづ。は施羅尼だら。地よ重障とのそ
ひく。涅槃とまうと。まうで津古の往生を
やもうべ。六字の名号と。まうからやまと參り。
一字のたゞあられハ銭根の萬と。まうと
又多ひ。ひく。他力より。まつ云ハ三力より。又高
松。特留此經止住百歲。まつ。言葉は劫末の

門も。舍利の利益あり。一と。御も。金門
もあひ。因とは門をうば。聖道と云て益なり。と思
ひ。心はごく。金佛ハ他力と。ひかく。自力
もあり。されバニカ也。まつ云ハ。我功德力。如來加持力。
及以法界力。三力也。また。大。小。中。大。中。小。三と。
如來。加持力。坐。法界。力。我。功。徳。力。如。來。加。持。力。
の。う。り。あ。ひ。く。大。な。り。行。と。や。も。く。ね。く。く。く。重
障。院。ま。う。か。事。と。う。ち。う。ち。う。施。約。り。が。こ。し。
ま。う。云。ま。代。も。益。有。べ。と。ま。う。ま。う。の。た。と。く。
ま。う。云。ハ。大。聚。内。情。わ。ひ。似。す。義。門。だ。じ。よ。相。資。

て後事。一。あるましめす。をく縁り。三
世富世ハ西山代淳五家の人々の云となし人あ
る。とまく。も御く。こまく。あるまし言ひ。ま
く。さよれ名号とす。入佛の縁子となす。ア
全く真言と。仰り。纏よ阿字。一字。まく
真言。眼心也。ゆく。舌相云語皆是。ま
や。佛池。名字何ぞ。まよ。あるましん。とてハ
は易常恒の縁され。世間。いだす。と。憶持
不忘の教。され。まく。にまく。本。ア。三大佛祇
れ修行。一念の阿字。めぐら。相瑜。仰。寔。游。ま
一坐の観心。かひく。一字のま。言。む。あれハ。錢根の

アヒ羽。よ。よ。と。や。モ。本有の。義。茶。方。ま。六
重障。の。お。れ。と。け。ま。く。か。ば。智。妙。わ。き。な。れ。大
信心。か。り。ま。と。利。ま。じ。ア。シ。バ。觀。念。に。つ。ち。れ。
な。の。ど。か。持。の。力。み。れ。で。未。地。成。ア。や。モ。道。ハ。安
養。知。足。ア。ま。い。を。く。ハ。密。嚴。花。藏。ア。う。又。現。生。ア。ハ
安。障。ア。ま。く。人。當。ま。ア。菩。提。と。得。因。ち。と。わ。は。
ア。の。効。驗。ア。も。ア。亡。死。と。ま。く。ゆ。し。そ。ア。利。益
を。く。れ。る。も。如。來。肉。證。の。秘。藏。在。生。顯。悟。れ。は。門。ア
ミ。ア。ま。る。結。縁。ア。志。ゆ。ても。勤。行。ア。ト

善。薩。ア。つ。ア。や。ア。も。ア。苦。と。受。事。

佛。ほ。れ。効。驗。ア。場。敷。ア。ま。キ。善。薩。の。利。生。ア。廣。大。

たる事。是れが在生の苦患^トもづく。感應^ヲう
ふゆきす。實^ベレバ。既に受苦^ル前生^もか不
くしてつまざ。私^きの聲^とたのじんあれ。感應
ひきもく^シ。身^もうり。じ事^をなまれて心に
ぬくへむ^シ。今經論^の意^よなむ。古
德^の教^ようりて意得^ハ。一切^在生^{自心小業}と^は
くらく、各々^{苦報}と^は。本作^の業^{百千劫}と^あ
きを亡^セせど^一。因縁^會遇て、還て^まじひと
くとく。菩薩^の行^爲有^し。どく^もや
まく^もと^たと^ん。神力^{業力}ヨ^リまく^も。ど
くとく^て。一切^在生^苦ト^か。

ノハナ^シ。モウツ^ム。苦^ト更^文義^よ。古德^セの意
ト^クど^う。ト^ハ慈悲^の心^をす。あ^ハしも
ク^クく^うじ^ビ。是^ハ初心^の時^を不^ト。二年
の^くく^の苦行^と候^リ。而^ハ亦^ハ有^る。境上^殊と^な
難^トう^うと^云。意^志吾^根の力^在生^の徳^心加^一。
代^て苦^トう^り。ば^とそ^る。ハ^未達^トも^み。も^う
は^身ハ^互相^あう^る。宿^怨此^こと^く。在^生の^{せん}ん
魏^ハと^れ。彼^國ノ上^モ感^得。利^益有^り。これと
凡^上敵^トう^り。在^生の^微サ^ヤの^苦根^とたどり。苦
と^ねむ。たの^とと^あ。涅槃經^ノ中^よカく^う。
在^世母^女人^有く。併^と佐^リ。供養^と。併^有て重^き

宿とう。肉と菜も用つて庵なつにとゞく。世間
かきく。そぞ女人の股の肉とまも。何人
服や。しらか。身の病ひか。女人苦痛多ひがく
く。南無佛陀くとまく。信心とつてん。ま
ねも。あくまと付けよ。痛や。又はと錢持
とゆ。道と悟はつて佛によろしてけ事
を経て。佛云く。わざうてゆくべからずと
つあはと說事。云。汝我慈善根の力。汝は信く
せたれ。け事と。下りて。塔上縁か
れ。上りて。妙用。されかへじ。日代わ
け。事と。月のあくべりで。わ

うふう。何をあくべり。心あらん。慈善
五よかく。と。事たり。遍せ。と。事し。
り。有心。限りあつて。事。と。事し。
薩の利益。只増上縁となり。り。し縁あり。前生
八自善根有。ものか。又。善の薩の慈悲ある
一と。前生の善根あらば。加と。さす。月代
わく。あらば。月代。事と。事と。事と。月代
天然の道也。せる。事と。事と。もさう。先
物のあらばと。統て。事のと。じ。業因をもとむ

苦果りうふはと代て苦とうめりとつ。それとの
道理也。経はまき。妄間の業と物もとさう。四トモ
死生の妄間の業と物もとさうと見る。かく
余と断て。自代て地獄に入が。是も
くうううううか事。よは。初発心。まことに
死ぬよ處。乃至飢餓の世に。力大魚となりて
死生のあゆ。食せ。穀のじ。本地と成て
海戒と。眞福の財。金色の文殊も。う
ちもく。漏而これとがんじ。漏とすく。毒を
もて害すんと思。又恩惟。今日漏破とうく
人を害す。そくと出でばとくか。おなづ

すいそよ。死とむ。てゆく。命と食せん。え生
じく。未來も度せん。とも。今度ひつて。る
ゆけ因縁とり。とも。ゆきと度どつて。
う。則代て受苦と。や。も。おも。も。嘗葉
真性れど。我即苦す。より。我即苦す。代とく。
せよ。法界と。あく。て。自他と。う。まき。お
生の苦。即菩薩の苦。う。と。代て受と。う。う。
げ中。餘い義勢を。まく。門。まく。ハ。半。の
地上。孫と。ふと。代受苦の益有下。是も付
感應の有無。利益の運。其道理と。ゆる。う。
た。へと。う。う。死生の機根。本の。う。がう

の意樂也。大は仰うり。先とて。窮とて。外
也ハ境也。ゆの。あれ中人。大とぞ。力河。
ば。萬物も。そぞ。り。その中の大とぞ。ひ。多
枯らすも。が。ゆ。と。も。や。あ。用。ト。も。也。御
事中の大と。も。ゆ。運。運。用。ト。か。よ。多。と。多
く。仏。ま。の。菩。薩。ハ。意。樂。無。か。ハ。凡。生。に。平。樂。ゆ。が
。し。き。也。凡。生。の。様。う。ま。と。叫。ハ。感。意。也。
大。つ。も。キ。カ。レ。往。心。の。う。と。智。解。ハ。覺。也。大
事。に。を。き。ま。る。も。と。く。想。た。角。一。ミ。ホ。リ。大
比。御。う。う。如。一。ア。後。解。ま。と。も。と。か。

お。じ。う。い。る。枯。う。本。れ。火。の。つ。く。屋。と。み。の
じ。う。お。生。れ。心。中。キ。佛。性。あ。う。本。れ。中。の。大。ハ
性。ハ。ど。一。や。そ。う。ハ。若。樹。生。ど。ば。が。ど。
佛。菩。薩。ハ。無。力。ハ。外。う。り。あ。う。火。の。ど。一。ま。若
中。キ。火。の。性。有。と。ゆ。う。方。後。お。け。道。を。あ。う。火
も。火。の。う。ん。あ。う。と。云。う。も。火。の。性。有。と。ゆ。う。佛。菩。薩。の
ト。ひ。懇。お。後。う。く。ハ。お。う。う。ハ。ト。火。の。大。教。大。懇。も。と
云。う。も。佛。性。有。と。自。若。な。く。ハ。又。厭。火。と。う。も。
火。と。も。佛。性。有。と。自。若。な。く。ハ。又。厭。火。と。う。も。
火。と。も。佛。性。有。と。自。若。な。く。ハ。又。厭。火。と。う。も。
火。と。も。佛。性。有。と。自。若。な。く。ハ。又。厭。火。と。う。も。

仏菩薩の慈悲願力のたまなれ事とたの事。
海上孤^こにて。無^む難^なとて。淨^{じやう}刹^{さつ}よ生^う。凡^げ人^{じん}を
あくため。仏力とく。もたらす。海上勝^{しやく}勝^{しやく}りゆく。
たゞ。ご^ごど。さうかうせん。中^{なか}。はなまく。うき
もれもあり。うき。佛^{ぶつ}はのさうり。うき。あななんと身
い。初^{はじ}うち。お家^{いえ}の有^うも動^{うご}け。精進^{せいしん}も。それうきの
行^{おこ}ふる。母^{おや}も。だくし。寺^{てら}とつぐ。其^{その}苦縛^{くばく}とを
さうれ。佛^{ぶつ}はの氣^き力^り。だくし。うき。おれりも
れやす^{やす}れ。おやが。おやが。うき。うき。うき。うき。
うき。肉^{にく}の火^ひは。因^{いん}。うき。めの。火^ひ。だくし。うき。うき。
うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。うき。

宿^{しゆく}習^くト^トぬ^ぬべ^べ。うき。宿^{しゆく}習^くト^トぬ^ぬく^く人^{じん}。善^{ぜん}縛^くと^とう
く^く人^{じん}。いと^とそ^そ。ど。枯^かう木^木。れ。引^ひか^かて。後^{うしろ}
と^とけり。ゆう^{ゆう}が^がて。く^く。先^{さき}と^とく^く。後^{うしろ}の生^う熟^{じやく}。少^{すくな}。感^{かん}
意^いの遅^{おのづか}。迷^{まよ}の。わ^わひと^とく^くて。や^やう^うす^す。仏菩薩^{ぶつ}の慈悲^じ
の慈悲^じ。とく^くう^うく^く。不^ふ品^{ひん}罪障^{ざいじやう}の。あ^あくと^とう^うじ^じ。聖^{せい}
て。悲^ひれの火^ひと^とぬ^ぬべ^べ。自^じ古^この力^り。あ^あくと^とう^うじ^じ。聖^{せい}
應^うの益^え。う^うひ^ひ。終^{しゆう}く。往^{むか}心^{こころ}と^と堅^{かた}固^いめ^めく^く。
大^{だい}聖^{せい}の化^か儀^ぎ。とく^くう^うじ^じ。被^は

い。い。い。結^{むす}び。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

りのく。大師よ御念とうに。せ生れ事とあら
ゆふ。初ま天王の面の海よ。がき船とて有り。が
自然本性にさるをうけて。溪す有り。とあらな
き者先とあら。金童の赤身うしてゆく。舍利
讚嘆の色とゆ。故ゆ死にて後天王の太
き。大般若の料紙ともりせうちへて。夜に牛よ
絶野縫の者ひづく多福をくゆ。紫燈とく
鳥と生れ。とよ火とまつとせし人をして。はるよ
智惠の業や。かく熏にて。奥の院の幕仕と生
も。三密の行はとある。耳鼻口。身とみの事

の少よ。今檢校とまれり。とあら。御ひづく。ば
半とすす。御はの詰縫。あり。くと。律の
中とす。在世に。焰池の中うり。が。佛の法とさ
縫よ。草の根よまとつるよく。や。附よ牛ととか
以ふ。び。枝のうそと。うそと。つ。安法を
因縁かうり。初利天が生れて。神通とり。くと
かくち。焰天とたて。所。小縫と。佛。焰天の因縁
と。見ぬよ。焰天とおみけとゆく。初果を得。又
天竺よ。は。羅門有て。人の體體と。これと。人
銅の着と。耳の完と。御ひづく。あら。ひ
ともり。あら。あら。金童。一輪。と。べて。や

御みよへぬ。とべどもゆゑとくべ者はとゆる人
の耳へ元深く。とく字のうひあく。とてさ
く。防が。完らゆく。とく。さてゆはの人の體
とかひく塔と多く供養せり。天よ生く。う
いさんや。うづはとす。伝解。修行せんと。さ
きは善住天子經より云。圓法生。傍薩於地獄勝於
供養。恒沙佛者矣。凡そ佛はの中を結縁を繕
もうと。般益と統じ。其ひ。うるうへとけり。教門ひ
うひとつとも。經集論の三藏。よきよび。經の空を
論。律の戒を。說論。慧をあさし。御て律を
威儀と奉る。般益とし。般縫とし。

毛犯と制とうをめだらひ其徳わざる。失と
トさればこそと制と。十五二も失れれば角じ。
邪命の財うとりて。佛とほくなと。清淨の比丘
禮とく。とく。とく。涅槃經。律とたとひく
制とく。とく。とく。破戒の比丘。不淨の財とた
く。とく。とく。とく。とく。供養もうへて地
獄よ入る。清淨の比丘。一河の水とくのじ。とく
うり。律藏のまゝ。大意とく。とく。失も。失
判と。とく。とく。毛犯はと真隣。とく。とく
く。果と得せり。とく。とく。經の中よ。だらひ失
あれも。をす。般益と目す。找のままで是れと

じ。十輪經の中よ。破戒の比丘の盲目なり。へ書
ゆキ。もとより。その酒のあらう酒の家へ。
と。舍利弗。目連のじく。やまう。歎と。と
説。川。經よ。瞻葡萄ハ萎と。と。餘花
と。ぐれ。り。破戒の比丘ハ。外道。もぐれ。り。と。
心地観。徑よ。破戒を。正見の。れ。ハ。因。て。福。田。て。
う。持戒。か。ど。と。惡見の。物。ハ。惡知識。と。と。と。
懲花。御坐。め。む。袈。裟。と。う。か。との。看。が。と。
解脫。と。と。う。或。そ。人。た。う。き。よ。袈。裟。と。う。房。
圓。孫。も。破戒の。比丘。尼。と。な。う。其。圓。孫。あ。よ。羅。漢。の
果。と。得。と。説。り。又。解。の。す。よ。お。家の。心。と。だ。

汝。ゆ。如。は。出。家。の。跡。と。な。う。と。う。大。集。經。中。え。
重。この。衰。よ。た。う。て。金。銀。等。の。な。う。財。ハ。白。錫。ま
で。重。と。い。得。道。の。人。う。く。が。至。種。戒。破。戒。あ。う。財。等。
た。く。髮。と。う。り。袈。裟。と。う。り。と。う。身。の。る
ち。あ。り。と。ハ。供。養。と。う。。繫。縛。志。殺。害。と。う。と。
た。と。ひ。犯。罪。あ。う。と。は。よ。う。り。も。は。う。と。ひ。と。若
王。長。是。と。證。持。一。殺。害。セ。モ。覺。空。モ。う。と。ひ。と。
羅。あ。も。く。あ。り。美。圓。き。も。り。と。徳。と。う。う。よ。大
と。徳。よ。さ。終。ハ。經。ハ。失。わ。ま。と。も。徳。と。う。う。よ。大
三。も。強。あ。れ。れ。毫。と。う。び。だ。と。ひ。惡。離。中。門。と
う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

毀のれども先は毒鼓の孫とつゝ。毒鼓の孫
といふハ鼓も毒となり。是をつよ。教へゆる所
所の在生處とさへ。はるかに。その恩業の先
毒うて。りゆうよめたゞて。善薩の論藏の也。
得失のぬる罪福の輕重と。判せり。じゆく。律に
割とた。結縁のじゆく。つまう事と信して。吾
孫と。よひよさん。經由とし。罪障。はまど見
事と。みて。福業。よみうど。て。過とほじ
え。きわの苦因と。よび。ぞ。智惠を
も。軽まと。よく。重きた。貧乏失と。よび。う。徳
もあら。体道。おひが。後と。よみうど。

つまうちや。すく。こき。ハ。山。峰。の。口。傳。聖。教。も
大意。なり。し。か。く。こ。い。く。ま。す。か。く。た。是。三。字
と。す。く。し。る。眼。眼。五。藏。と。す。く。智。鍵。也。

沙名集卷第二 下終

神護寺

迎接院

永仁寺二之曆甲子年正月六日於洛陽正觀町油
小路書寫之平俗是為利生方便坐稱之隙寫

矣

片山貪士

航元第二支曆えのひ本もとまま之候まつは書道きじゆう上人じょうじん
草渡くさわたり平ひら



道惠